

菊池三溪自筆稿本目録（二）

福井辰彦

序

京都大学附属図書館には、菊池三溪の自筆稿本と旧蔵書が所蔵されている。

自筆稿本は全六十二点。そのうち六十点は一般貴重書となつている。残り二点は普通書として配架されていたが、現在は準貴重書扱いとなつており、間もなく貴重書の指定を受けることである。

旧蔵書は、すべて普通書として、請求記号に従い配架されている。正確な点数は未確認であるが、受人時の台帳には、三九一点の書名が見える。三溪と同時代の、日本人の詩文が多い。

これらはいずれも、明治三十三年（一九〇〇）十二月、三溪の養子である菊池左馬太郎によつて、京都帝国大学に寄贈されたものである。

菊池三溪。名は純、字は子顕。三溪のほか、晴雪楼主人、

鉄屏書屋主人なども号した。文政二年（一八一九）、紀州和歌山藩の儒者菊池梅軒の子として生まれる。菊池家は三溪の曾祖父衡岳以来代々儒を以て仕え、藩政にも参画した。三溪も幼時より儒者たるべく教育を受け、和歌山藩儒となる。安政五年（一八五八）に藩主徳川慶福が十四代將軍に就任した後、將軍侍講となるが、政争に巻き込まれ元治元年（一八六四）致仕、采地である下総国結城郡宗道村に退隠した。その後常総各地を転々としたが、その間下館、笠間、土浦の各藩に相次いで聘せられ、これに応じている。

明治四年（一八七二）春、東京へ出た後、五年六月、京都に移つた。京都でもたびたび転居を繰り返している。十四年には東京に戻り、警視庁御用掛を勤め、十六年には大阪に移り、大阪府中学一任教諭となつた。二十一年までには再び京都に移つている。二十四年十月十七日若狭国小浜で没す。七十三歳。主な著書には『晴雪楼詩鈔』（慶応三年（一八六七）刊）、『東京写真鏡』（明治七年刊）、『西京伝

新記』(明治七年刊)、『本朝虞初新誌』(明治十六年刊)、『訳準綺語』(明治四十四年刊)などがある。

三溪の養子左馬太郎は素空と号する日本画家。明治六年生まれ。幸野樸嶺に師事し、四条派を学ぶ。二十三年、京都市画学校専門画科を卒業、一時上京するが、再び京都に戻り、浅井忠に日本画を教え、浅井からは洋画を学ぶ。京都市立美術工芸学校の嘱託教諭や京都市立高等工芸学校の講師を経て、市立陶磁器試験場に勤める。三十六年、浅井や神坂雪佳らと遊陶園を設立。四十二年にはヨーロッパに視察旅行する。大正十一年(一九二二)没。四十九歳。

漢詩・漢文がまだ生きた文学であった明治二十年頃までの文学や文化を考える上で、三溪は重要な存在であるはずなのだが、その研究は余り進んでいない。以下、主な先行研究を挙げてみる。

- ・富村登『常総の漢詩人』(富村登遺稿出版後援会一九六五)
- ・前田愛『明治初期文人の中国小説趣味』(『言語と文芸』五一 一九六七・三、のち『前田愛著作集』第二卷(筑摩書房 一九八九)所収)
- ・日野龍夫『菊池三溪自筆詩文稿』(『国語国文』四六一九 一九七七・九、のち『日野龍夫著作集』第三卷(へりかん社 二〇〇五)所収)

・宮崎修多『漢訳文と明治の記事文』(文学増刊『明治文学の雅と俗』(岩波書店 二〇〇一))

・小林勇『菊池三溪と『西京伝新記』』(新日本古典文学大系明治編一『開化風俗誌集』(岩波書店 二〇〇四)解説)

・池澤一郎『『本朝虞初新誌』と講談』(新日本古典文学大系明治編三『漢文小説集』(岩波書店 二〇〇五)解説)

・福井辰彦『ある儒者の幕末―菊池三溪伝小攷―』(論究日本文学』八九 二〇〇八・一一)

・福井辰彦『もう一人のお伝―菊池三溪「臙脂虎伝」について―』(『日本近代文学』八二 二〇一〇・五)

三溪研究がなかなか進まなかったのは、そもそも明治期の漢詩文が研究対象となること自体、まれなことであったからでもある。しかし、同時に、重要な一次資料である自筆稿本が、十分に認知・活用されてこなかったことも、要因の一つであったように思われる。

右に挙げた先行研究のうち、三溪自筆稿本について詳しく紹介しているのは、日野龍夫『菊池三溪自筆詩文稿』である。日野氏はまず自筆稿本四十六点の書名を挙げ、三溪の略歴をたどった後、特に注目すべき資料数点を紹介して

凡例

いる。しかし、日野氏の調査から漏れた自筆稿本が少なからず存在することや、各稿本の書誌情報や内容については記述がなされていないことなどから、自筆稿本の全貌を概観する上では不十分なものとせざるをえない。

三 溪自筆稿本は、そのほとんどが貴重書に指定されており、すべてを通覧することは容易でない。したがって、この貴重な資料が活用されるためには、本稿のような、一冊の書誌や内容を詳しく記述した目録が必要であろうと考えた。

三 溪の作品のうち、公刊されたものはごく一部であり、彼の伝記や文業を明らかにするには、自筆稿本は最も重要な一次資料となる。当然、三 溪と交遊のあつた当時の学者・文人たちについても、様々なことが判明するであろう。また、自筆稿本の多くには、他の文人による批点や評語が大量に書き入れられている。これらを通して、詩文の制作・推敲がどのようになされていたのかを、具体的に知るることができるし、当時の文人社会の動静を生き生きと伝える資料でもある。

本稿を一つの契機として、近世・近代文学史上、極めて有用なこの資料がより広く活用され、豊かな成果につながることを願いたい。恐らくは、泉下の三 溪も、そのことを喜んでくれると思うのである。

一 本稿は、京都大学附属図書館が所蔵する菊池三 溪自筆稿本の目録である。本号には、その前半を掲載する。後半は次号に掲載の予定である。

二 配列は、京都大学附属図書館が付した請求記号の順にとした。ただし、現在準貴重書扱いとなっている二点は末尾に配した。

三 各稿本には通し番号を付した。
四 各稿本ごとに、まず書名を記し、次いで請求記号を示した。

五 次に、①分量、②書型、③丁数、④外題、⑤内題等、

⑥序跋、⑦備考、⑧日次の八項目について記述した。

六 いったん薄紙表紙を付けてまとめられた詩文稿を、改装または合綴した稿本の場合、③丁数には薄紙表紙も算入した。

七 ⑧日次の記述は、以下の方針による。

1 複数冊から成る稿本の場合、各冊の冒頭を第一冊のように示した。また、各冊の外題が異なる場合は、()に括って外題を示した。

2 一冊の稿本が、複数の巻から成る場合、各巻の内題を、それらが記されている位置に、●印を付して挿入

した。

3 一冊の稿本が、相異なる複数の内題を持つ部分から成る場合、それぞれの内題を、それらが記されている位置に、●印を付して挿入した。

4 種々の詩文稿を合綴した稿本の中には、いったん薄紙表紙を付けてまとめられた詩文稿を含んでいるものがある。この場合、その冒頭の箇所、薄紙表紙に記された題を、 で囲って挿入した。また、その末尾の箇所を、『印で示した。

5 種々の詩文稿を合綴した稿本の中には、体裁・内容などから、元々ひとまとまりであったと推定し得る部分を含んでいるものがある。この場合、その冒頭の箇所、*印の注記を施し、末尾の箇所を、『印で示した。

6 各稿本に収められた三溪の作品には通し番号を付した。

7 三溪自身による序、題言、凡例などには番号を付けず、※印を付した。

8 三溪以外の人物による序、跋、詩文には番号を付けず、・印を付し、() に括って作者名を示した。

9 題のない作品には、仮の題を付け、「」に括って示した。内容などについての注記は() に括って記し

た。

10 詩については、その詩体を() に括って示した。

11 連作詩について、詩の数が詩題に明示されていない場合や、その一部を節録している場合は、当該稿本に収録されている詩の数を() 内に示した。

八 漢字の字体は、原則として、現在通行の字体に統一した。

九 割書き、小書きの文字は() に括って示した。

【一】 皇朝人君明暗図説義証・人臣忠姦図説義証

(1・84 / コ / 1 貴)

①分量 四卷一冊

②書型 縦二四・二cm×横一六・八cm、縹色布目表紙、四つ日綴じ

③丁数 三四丁

④外題 「(狗池三溪手稿) 皇朝人(君明暗)(臣忠姦) 図説義証 各二卷」(表紙左肩、手持梓書き題簽)

⑤内題等 内題「皇朝人君明暗図説義証卷一」「二」「皇朝人臣忠姦図説義証卷一」「二」

⑥序跋 齋藤南溟「皇朝人君明暗図説跋」、「自叙」(弘化四年十一月)、遠藤寛「皇朝人臣忠姦図説跋」(弘化四年十一月)、「自叙」

⑦備考 本朝の名君・暗君、忠臣・姦臣に関する逸話を集めたもの。「皇朝人君明暗図説義証」卷一は名君、卷二は暗君、「皇朝人臣忠姦図説義証」卷一は忠臣、卷二は姦臣を収める。各卷内題、著者名の次にはそれぞれ「明君」、「暗君」、「忠臣」、「姦臣」、とあり。各逸話は二条一組にし、「慈仁」「節儉」などの小題を付ける

⑧目次

● 皇朝人君明暗図説義証卷一・明君

- 1 慈仁 崇神開溝恤四海蒙沢 / 一条脱御衣万民浴徳
- 3 節儉 肫肫仁徳宮室不理 / 浩浩天智材木用質
- 5 英明 神祖戒小慧千載龜鑑 / 元就責佞媚万世鑑範
- 7 誠信 棹舟公泛杯三軍感激 / 善徳君賜酒滿朝心醉
- 9 義勇 助弱折強謙信庇義清 / 援堅執銳元就誅晴賢
- 11 大度 延攬英雄早雲吞八州 / 駕御豪傑豊豊三韓
- 13 委任 時頼拳一賢万国大治 / 台廟任三老百僚悅服
- 15 守成 大猷賜佩刀諸侯悚息 / 泰時分産田弟兄和順

● 皇朝人君明暗図説義証卷二・暗君

- 17 逸遊 義隆善和歌何裨治績 / 氏実能就鞠已觀亡兆
 - 19 驕奢 高時鬪獒狗天下乱階 / 義政觀猿葉蒼生呻唵
 - 21 暴厲 武烈劓孕婦何然虐哉 / 雄略抗山神可謂暴矣
 - 23 頑愚 頼家淫昏身斃浴室 / 秀次苛虐死築畜塚
 - 25 誑誘 天皇捨身称沙弥 / 太子党賊創寺塔
 - 27 蠱惑 義貞耽衽席失軍機 / 清盛愛蛾眉乱家法
 - 29 兇悖 殺父義朝人而獸 / 害弟頼朝狼乎豺
 - 31 式微 弑父害君倫理安在 / 防狼進虎禍乱踵
- ・ 皇朝人君明暗図説跋 (齋藤南溟)

※ 自叙

● 皇朝人臣忠姦図説義証卷一・忠臣

33 鎮靜 鬻體在御床兼家自若 / 巨蛇出后宮重盛從容

35 ～ 36 寛猛 高力慈祥称仏／作左剛直呼鬼

37 ～ 38 循良 赫赫高房捕妖巫／堂堂頼之弄佞坊

39 ～ 40 直諫 藤房論龍馬面折庭争／尾輿投仏像直言極諫

41 ～ 42 深慮 勝重謀寡妻獄訟平允／元春聘媿女兵鋒無前

43 ～ 44 名節 服・冕師堅代天子／覆魚鱗忠光狙將軍

45 ～ 46 忠誠 以身死難万及義狗／為主雪耻鏡飭良馬

47 ～ 48 剛直 勝高呼城乱槍洞胸／企雛罵虜一刀殺身

● 皇朝人臣忠義証卷二・姦臣

49 ～ 50 猜忌 紫宸殿上群小歌酸甕／鹿谷荘中姦党倒瓶子

51 ～ 52 刻薄 兼道縦威福猛似乳虎／直義逞慘毒暴如虺蛇

53 ～ 54 佞幸 善禳玄坊蠱惑太后／陷忠道鏡僭擬乘輿

55 ～ 56 叛乱 馬子謀逆天怒地噴／将門扇乱綱断倫絶

57 ～ 58 弑逆 害君忠致天地何容／餌母光秀豺虎不受

59 ～ 60 培克 内廷外厲大賀誅滅／人面獸心数正屈辱

61 ～ 62 剛腹 正則殺循吏豈能久／正純害家翁其不永

63 ～ 64 讒間 媚君景時疎間同胞／結党三成忌憚功臣

※自叙

【二】民権講義（甲）（2・41／ミ／1 貴）

①分量 一冊

②書型 縦二・三・〇 cm × 横一六・七 cm、肌色布日表紙、四

つ日綴じ 改装本（薄紙表紙一冊本に、厚紙表紙

を付けて綴じ直している）

③丁数 二九丁

④外題 「民権講義 完」（表紙左肩、子持柘書き題簽）、

「民権講義」（二丁日薄紙表紙左肩、打付書）

⑤内題等 なし

⑥序跋 「自叙」（明治七年五月）

⑦備考 「論民権」一〜十三を収める。七〜十三には執筆

の日付が記されており、明治七年四、五月の成稿

⑧目次

※自叙

1 ～ 13 論民権 一〜十三

【三】民権講義(乙)(2・41/ミ/2貴)

①分量 一冊

②書型 縦二二・六cm×横一五・六cm、縹色布目表紙、四つ日綴じ

③丁数 二四丁

④外題 「民権講義 全」(表紙左肩、子持柀書き題簽)

⑤内題等 内題「民権講義」

⑥序跋 「自叙」

⑦備考 甲本(2・41/ミ1)とほぼ同文。

⑧目次

※自叙

1 講義民権 一〇十五

【四】印須社詩文稿(4・03/コ/3貴)

①分量 一冊

②書型 縦二六・三cm×横一九・〇cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ、改装本(薄紙表紙一冊本に、ボール紙表紙を付けて綴じ直している)

③丁数 三二丁

④外題 「印須社詩文稿 全」(表紙左肩、打付書、子持柀を書いた中に記す)、「印須社詩文稿(甲戌)」(一丁日薄紙表紙左肩、打付書)

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 明治六、七年の詩稿。印須社同人に回覧されたもの。一丁日薄紙表紙に、同人の名を列記し、各同人がおのおのその下に、回覧された日付・順序を記す。

⑧目次

1 月下懷人(五古)

2 畜塚(在西京三条瑞泉寺)(七絶)

3 信夫寛一郎墓碣銘

4 小影自贊

5 酒茶優劣弁

- 6 5 8 詠史（係本邦故事）（七絶二首、七律一首）
- 9 5 10 糺林水亭避暑（録旧作）（七絶二首）
- 11 乞菊牘
- 12 展重陽重登高（七絶）
- 13 霜館觀狼煙枝。贈奥山黄葉生（録旧作）（五古）
- 14 5 16 中秋後一日、暖房小集。际同社諸友（七律三首）
- 17 寿星贊（課題文）
- 18 觀新曆（課題詩）（七律）
- 19 5 20 題袖雲石。寄似江馬正人（近作）（七律二首）
- 21 小島高德・楠正行題歌詩函卷跋（近芸）
- 22 5 23 同（七絶二首）
- 24 袖雲石記
- 25 備前兼光刀歌（七古）
- 26 題黄石（黄石岡本君囑）（七律）
- 27 市川栢筵伝（録近芸。乞正）
- 28 5 29 風雪夜婦（七絶二首）
- 30 5 39 波臣十詠（録近作）（五絶十首）
- 40 5 41 六月初五、同黄石老人、双橋詞兄、遊于若王子林亭、分録陰幽草勝花時、為韻、得花字（七律二首）
- 42 記新聞（一名節妓伝）
- 43 折桜花贈外国人（七絶）
- 44 5 45 遊桃山（七律二首）
- 46 祇園祠下觀都人搬沙（七絶）
- 47 5 55 名花十二客（録九）（五絶九首）
- 51 5 65 西京都門雜詠（録近作）（七絶十首）
- 66 挿秧歌（七古）
- 67 宇治吊古（七律）

【五】晴雪楼存稿（4・03／セ／1貴）

①分量 五卷一冊

②書型 縦二六・五cm×横一七・九cm、萌黄色表紙、五つ

日綴じ

③丁数 六五丁

④外題 「晴雪楼存稿（自卷壹至卷五）」（表紙左肩、子持

杵書き題簽）

⑤内題等 内題「晴雪楼存稿卷一」「〽五」

⑥序跋 斎藤竹堂「晴雪楼存稿序」（嘉永四年二月）

⑦備考 卷一、二は文集。作の下限は安政三年（一八五六）。

卷三〽五は詩集。内題、著者名の後に「香雲集一

「〽三」とあり。『香雲楼詩鈔』（4・07／コ2

貴）所収詩も見えるが、完全には一致しない。作

の下限は嘉永三年（一八五〇）。

⑧目次

・晴雪楼存稿序（斎藤竹堂）

●晴雪楼存稿卷一

1 南海外集序

2 送川合梅所先生序

3 送季弟蔵六序

4 曹参論

5 季札論

6 四皓論

7 論藤原園人・善岑安世

8 郭巨論

●晴雪楼存稿卷二

9 天野広丸伝

10 翠黛伝

11 風白月香楼記

12 続風白月香楼記

13 仏手柑記

14 粒画記

15 異鳥記

16 案山子説

17 読川角太閣記

18 湊内寓居図巻跋

19 題那智瀑布図

20 月喩

・「識語」（塩谷世弘）

・「識語」（神交機）

●晴雪楼存稿卷三・香雲集一

21 古梅喩（五古）

22 〽 23 人日口号二首（七絶）

- 24 詠大沼子寿天保樂府（七律）
 25 春半西郊散策（七絕）
 26 深川晚婦囑日（七律）
 27 平蟹行（七古）
 28 備後三郎題詩図（七絶）
 29 ～ 30 花鳥題画十二首（録二）（五古二首）
 31 活東（七律）
 32 ～ 35 落花次文衡山韻（七律四首）
 36 宝泉精舍所見（七絶）
 37 題画（五絶）
 38 予讓刺衣図（七律）
 39 ～ 41 晚秋念七日、遊十二社、途中漫吟（五律三首）
 42 冬日雜詠二首（録一）（七絶）
 43 憎蚊（集詩經語）（五古）
 44 秋晴出遊（七律）
 45 窮鬼図（七古）
 46 ～ 47 眉（香齋八詠。録二）（七絶二首）
 48 足（七絶）
 49 初冬十二日、青山途上所見（七絶）
 50 ～ 51 蟬蛻（七律二首）
 52 荷珠（七律）
 53 初夏幽居（七律）
 54 小松川途上（七絶）
 55 ～ 56 雪中雜詩二首（七絶）
 57 虫語（七古）
 58 南紀寓舍雜興（以下三首、南遊中作）（七絶）
 59 和州道中侍輿（七古）
 60 古川村途上（七律）
 61 勢州道中願望高峰（五古）
 62 夏日小占（七絶）
 63 ～ 83 猴稚坊雜詠（七絶二十一首）
 84 聞鶉（七律）
 85 卯花雪（七律）
 86 ～ 87 象奕二首（隱括周易語）（五絶）
 88 両国雜興（七絶）
 89 觀角兵獅子戯（五古）
 90 小山梅塢宅集。同蕙堂作（七律）
 91 走馬灯行（七古）
 92 ～ 95 四春詞（七古四首）
 96 焦尾余韻題詩（七律）
 97 四木村驟雨所見（七絶）
 98 国府台覽古（七古）
 99 継橋歌（七古）
 100 秋柳（七絶）

- 101 濱雅。詠園中野蔬雜卉畧老圃某（七古）
- 102 月夜踏花影。擬韓偓体（七言古）
- 103 ∽ 105 歲晚偶感（七律三首）
- 106 洗竹（七絕）
- 107 山水小景（五絕）
- 晴雪樓存稿卷四・香雲集二
- 108 ∽ 109 度花鐘聲（七絕二首）
- 110 ∽ 119 丁未鷄日、偶讀張山來花鳥春秋。愛其文才雅潔
乃援筆得十二絕句（錄十）（七絕十首）
- 120 華蠟燭歌（七古）
- 121 開春、与諸子同遊江東（七律）
- 122 ∽ 124 詠箕作玉海坤輿圖識（原五）（五古三首）
- 125 ∽ 127 夏昼（七絕三首）
- 128 烏鬼行（原二）（七古）
- 129 不忍池上寓日（七絕）
- 130 夏山雨意圖（七絕）
- 131 ∽ 133 秋夜詠山陽遺稿三首（七律）
- 134 秋尽書懷（七律）
- 135 初冬、同友人飲茜坂水樓（七律）
- 136 夜觀星象、賦長句（七古）
- 137 ∽ 139 霞関春望三首（七絕）
- 140 游揚風雪、初見伊川図。書与某生（七古）
- 141 御幣徵号歌（有引）（五古）
- 142 春雨訪友図（七絕）
- 143 雨日即事（七絕）
- 144 江上晚歸（七絕）
- 145 ∽ 146 寄広徳寺東流上人（五律二首）
- 147 ∽ 149 西圃四首（錄三）（五古三首）
- 150 平薩州宿花下図（七絕）
- 151 胡弓詞。懷司馬才郎（七古）
- 152 ∽ 153 秋晚村居雜述二首（七律）
- 晴雪樓存稿卷五・香雲集二
- 154 殘月杜鵑図（五絕）
- 155 ∽ 157 梨花三首（七絕）
- 158 古仏殿（七古）
- 159 牛疊行（七古）
- 160 偶言（五古）
- 161 ∽ 162 角田川懷古二首（七絕）
- 163 歲杪夜坐（七絕）
- 164 ∽ 165 詠海莊集二首（五古）
- 166 美人鬪雪。西昆体（七古）
- 167 初夏偶成（七律）
- 168 雷雨過（五絕）
- 169 荒花声（七絕）

170 〽 181 華燭引十二首（七絶）

182 〽 196 中川舟行十五首（有引）（五律）

197 源白石肖像（七律）

・「諸家評語」（友野霞舟、長戸得齋、大槻磐溪、塩田松園、大槻西磐、塩田箕山）

【六】晴雪山房一集（4・03／セ／2貴）

①分量 九冊

②書型 縦二・三・二cm×横一・六・一cm、黄土色表紙、四つ日綴じ

③丁数 第一冊三二丁、第二冊三三丁、第三冊三〇丁、第

四冊四五丁、第五冊五六丁、第六冊五七丁、第七冊三六丁、第八冊二四丁、第九冊二〇丁

④外題

第一〽三冊「香雲樓詩鈔 一」「〽三」^三」、第四〽六冊「三溪文鈔 一」「〽三」^三」、第七冊「三溪文鈔（附遊勢奇賞） 四」、第八冊「雨辰余筆 完」、第九冊「草寇紀略（附塩賊紀聞）」（いずれも表紙左肩、子持梓書き題簽）

⑤内題等 第一〽三冊 内題「香雲樓詩鈔 卷之一」「〽六」^三」、第四〽六冊 内題「三溪文鈔卷之一」「〽三」^三」、第七冊 内題「三溪文鈔卷之四」、附録内題「遊勢奇賞」、第八冊 内題「雨辰余筆卷之一」「二」^三」、第九冊 内題「草寇紀略」 附録内題「塩賊紀聞」

⑥序跋

第一冊 長戸士讓「香雲樓詩鈔序」（嘉永元年十二月）、第四冊 齊藤竹堂「三溪文鈔序」（嘉永四年二月）、第八冊 菊池梅軒序（安政二年十二

月)、関藍梁「書雨辰余筆後」、第九冊 塩谷誠「叙」(嘉永七年四月)

⑦備考

第一、二冊は『香雲楼詩鈔』(4・07/コ2貴)を増刪したもの。第三冊は嘉永元年(一八四八)から同三年にかけての詩を収録。第四冊から第六冊は嘉永・安政年間の文集。附録「遊勢奇賞」は天保十三年、紀州からの帰途、伊勢に遊んだ際の日記。第八冊「雨辰餘筆」は安政大地震の見聞を記したもの。第九冊「草寇紀略」は天草の乱について、同附録「塩賊紀聞」は大塩平八郎の乱について記す。帙あり、二三・七cm×一六・五cm、子持粹題簽を貼り付け、「晴雪山房一集 完」と書す。

⑧目次

第一冊(香雲楼詩鈔一)

- ・香雲楼詩鈔序(長戸士讓)
- 香雲楼詩鈔卷之一
- 1 古梅吟(五古)
- 2 楼上望紙鷲(七絶)
- 3 乙巳元旦(七律二首)
- 5 人口号(七絶二首)
- 7 読大沼子寿天保樂府(七律)

8 春半郊行(七絶)

9 風梅(七絶)

10 春晚書懷(七律)

11 春雨種菊(七絶)

12 深川晚掃矚日(五律)

13 平蟹行(七古)

14 備後三郎題詩桜樹図(七絶二首)

16 春遊六言(六言八句)

17 題家藏伊藤五子書幅(七古)

18 花鳥題画十二首(今録六首)(五古六首)

24 活東(七律)

25 勸化(七絶)

26 落花次文衡山韻(七律九首)

35 殿山晚婦(七律)

36 宝泉精舎所見(七絶)

37 二分春色到花朝(五律)

38 子日興(以下十首和歌題)(七絶)

39 海夕立(七絶)

40 秋曉(七絶)

41 浦千鳥(七絶)

42 静姫(七絶)

43 草庵雨(七絶)

- 44 眉（七絶）
- 45 足（七絶）
- 46 待宵恋（七絶）
- 47 俄変恋（七絶）
- 48 題画（五絶）
- 49 ～ 50 納涼（七絶二首）
- 51 秋園即事（七絶）
- 52 窮鬼図（七古）
- 53 木犀雨（七律）
- 54 予讓刺衣図（七絶）
- 55 ～ 59 晚秋念七日、遊十二社、途中謾吟五首（五律）
- 60 湖上寓日（五律）
- 61 ～ 62 冬日雜詠（七絶二首）
- 63 初冬十二日青山途上所見（七絶）
- 64 題南極老人図（六言四句）
- 65 ～ 66 鉄洲觀狼煙枝（原六首）（七絶二首）
- 67 江村避暑（五律）
- 68 秋晴出遊（七絶）
- 69 荷珠（七律）
- 70 ～ 71 蟬蛻（七律二首）
- 72 憎蚊（集詩経語）（五古）
- 73 秋夜宿山寺（七絶）
- 74 送長尺蠖之南紀（七絶）
- 75 初夏幽居（七律）
- 76 老鶻（七律）
- 77 小松川途上（七絶）
- 78 小金原（七律）
- 79 雪中柳（七律）
- 80 ～ 81 雪中雜詩（七絶二首）
- 香雲樓詩鈔卷之二
- 82 虫語（七古）
- 83 南紀寓舍雜興（以下數首南遊中作）（七絶）
- 84 ～ 89 余、以壬寅抵南紀、与客遊高松。帰途遇雨、有記。
又得六絶句。仍使弟敏造図、以題其後（七絶六首）
- 90 古川村途上（七律）
- 91 和州道中侍興（七古）
- 92 登高峰臨眺和河撰紀泉諸州（五古）
- 93 勢州道中願望高峰（五古）
- 94 ～ 96 霜天晚興（七絶三首）
- 97 蘆花被（七律）
- 98 門外追涼（七絶）
- 99 村居秋霖（七絶）
- 100 夏日小占（七絶）
- 101 ～ 124 猴稚坊竹枝（七絶二十四首）

- 125 寒夜讀書 (五古)
 126 冬日閑居 (七律)
 127 梅村踏月 (七絕)
 128 ∽ 131 四春詞 (七古四首)
 132 牧牛圖 (七古)
 133 花朝偶成 (七絕)
 134 花霧 (七律)
 135 西國雜興 (七絕)
 136 ∽ 137 象奕二首 (隱括易語) (五絕)
 138 卯花雪 (七律)
 139 夏日偶成 (七絕)
 140 新茄 (七律)
 141 觀角兵獅子戲 (五古)
 142 杜鵑 (七律)
 143 本門寺 (五律)
 144 ∽ 145 春晚漫吟 (七律二首)
 146 小山梅塢宅集。同蕙堂作 (七律)
 147 柳絮風 (七律)
 148 桃源春曉圖 (七絕)
 149 觀人闢象奕。次劉後村象奕韻、兼傲其体 (五古)
 150 走馬灯行 (七古)
 151 ∽ 152 幽居夏興 (五律二首)
- 153 山窓初夏。戲用鳥獸名同賦 (五律)
 154 ∽ 159 江居雜詠 (七律六首)
 160 ∽ 164 龍隱菴。以水田飛白鷺為韻 (五律五首)
 165 題焦尾余韻後 (七絕)
 ・「評」(友野霞舟、長戸讓、大槻崇)
- 第二冊 (香雲樓詩鈔二)**
 ● 香雲樓詩鈔卷之三
 166 ∽ 167 四木村驟雨所見 (丙午) (七絕二首)
 168 国府台覽古 (七古)
 169 病中立秋 (七律)
 170 ∽ 179 十秋詞 (七絕十首)
 180 凌霄倚樹圖 (五絕)
 181 演雅。詠園中野蔬畧老圃某 (七古)
 182 詠史 (七古)
 183 蚊市 (七律)
 184 猴戲圖 (七律)
 185 繼橋歌 (七古)
 186 華蠟燭歌 (七古)
 187 春霧 (七絕)
 188 ∽ 189 歲晚偶感 (七律二首)
 190 臘月書事 (七絕)
 191 僧西行野望圖 (七絕)

- 192 春立前一日小占（七絶）
- 193 三賢堂雜啗（七律）
- 194 正月廿日、賞雪於淀橋（七律）
- 195 粟津行（七古）
- 196 ∽ 197 新涼夜眠（七絶二首）
- 198 ∽ 199 驟雨池上（七絶二首）
- 200 苦熱（七律）
- 201 觀沿革圖有感（七絶）
- 202 題介石翁新竹圖（七古）
- 203 夜坐（七律）
- 204 中秋既望、草堂小集。与善淵、霞舟二翁同賦（七律）
- 205 中元口号（七律）
- 206 明曉（五律）
- 207 ∽ 208 丙午除夜、寄懷梅塢翁（五古二首）
- 209 直脚梅（七律）
- 210 苦吟（五律）
- 211 ∽ 214 歲晚雜題（七律四首）
- 215 題画（七絶）
- 216 ∽ 217 度花鐘声（丁未）（七絶二首）
- 218 ∽ 220 開春。与諸子同遊江東（七律三首）
- 221 西郊觀梅。寄似牧子徹（五律）
- 222 ∽ 226 読算作玉海坤輿圖識（五古五首）
- 227 ∽ 238 丁未鷄日、偶読張山來花鳥春秋。愛其文才雅潔、乃援筆得十二絶句（七絶十二首）
- 239 ∽ 240 水中梅影（七絶二首）
- 241 月夜踏花影。擬韓偓体（七古）
- 香雲樓詩鈔卷之四
- 242 ∽ 244 夏昼（七律三首）
- 245 前鳥鬼行（七古）
- 246 後鳥鬼行（七古）
- 247 ∽ 248 哭岡本生（丁未春）（七絶二首）
- 249 ∽ 251 花後遊殿山（七律三首）
- 252 夏雲奇峰多（五古）
- 253 野渡送別圖（七律）
- 254 ∽ 255 梅雨得晴（七律二首）
- 256 洗竹（七絶）
- 257 山水小景（五絶）
- 258 同牧子徹遊溜池（七律）
- 259 聞蛙（七律）
- 260 不忍池上寓日（七絶）
- 261 溪山雨晴圖（七絶）
- 262 夏山雨意圖（七絶）
- 263 ∽ 265 夏寓舍漫成（七律三首）
- 266 次韻友人見贈（五律）

267 觀插秧（七律）

268 ～ 269 首夏村居（七律二首）

270 夏夜偶成（七絕）

271 夜觀星象賦長句（七古）

272 利休煎茶図（七絕）

273 ～ 275 秋夜読山陽遺稿、題其後三首（七律）

276 画蘭（七絕）

277 ～ 279 秋尽書懷三首（七律）

280 ～ 281 初冬、与友人同飲茜坂水樓（七律二首）

282 ～ 289 春日寄懷（七律八首）

290 ～ 291 冬夜、校南溟先生詩文稿、書其後（七律二首）

292 初冬念二日、訪紳醒梁。席間閱菅茶山集。有題茅五隆

那智瀑布図之詩、曰、要知飛流千尺壯、好就梅花書屋

看。醒梁曰、此句非余不能知其妙也。因語往昔介石山

人造瀑布図、祖考西臯先生題詩其上、以贈故滄洲先生

之事。今皆散逸。純滄然不能無感。席上走筆、用茶山

翁韻、記其実（七古）

293 香奩体（七絕）

294 言志（七絕）

295 ～ 296 丁未歲晚、次韻紳醒梁読南溟詩集作（七律二首）

297 臘月十七日、訪乙骨栗甫。歸途過両国橋（七絕）

298 ～ 299 臘月十九日、風雪、訪紳醒梁梅花書屋。席間會閱

春草堂詩集。因用其歲晚書懷之韻同賦（七律二首）

300 晋文公載塊図（七絕）

301 首陽采薇図（七絕）

302 牛糞風雪伴母図（七絕）

303 磐溪大槻文学、頃日刻其寧靜閣詩集。已成辱見惠一本。

因賦長句答謝、兼似家溪琴老兄、遙懷浪華旭莊先輩。

近日溪琴、旭莊亦將刻其集。故德惠之（七古）

304 寒夜枕上即事（七絕）

305 ～ 306 霜曉（七絕二首）

307 冬日見梅、贈小山梅塢翁（七絕）

308 梅花。用甌北詩韻（七律）

309 ～ 318 詠懷古跡十首（七古五首、七律四首、七絕一首）

・「評」（長戸讓、大槻磐溪、塩谷誠、冷雲積果）

【第二冊（香雲樓詩鈔二）】

●香雲樓詩鈔卷之五

319 ～ 320 半日公退、無聊偶作（七律二首）

321 梅花五首。每詩句尾聯、以文衡山句、傲宋子虛鯨背陰

之体。今録其一（七絕）

322 ～ 324 霞関春望三首（七絕）

325 游楊風雪、初見伊川図。書与某生（七古）

326 ～ 327 丁未臘月、余以父蔭、辱蒙 寵命、擢中興（官名）

兼命儒職。家君感佩之余、賦賀詩二章賜焉。（純）忝

- 次其瑤礎奉呈（七絕二首）
- 328 御幣徽号歌（有引）（七古）
- 329 335 梅花七首。以高青邱、月明林下美人來句、為韻（五絕）
- 336 江南詞。香奩体（七絕）
- 337 春雨訪友圖（七絕）
- 338 与家海莊同、觀花東叡山。時海莊歸期在近（七律）
- 339 同子威、子徹、觀雨觀蓮亭（七律）
- 340 341 雨日即事（七絕二首）
- 342 代姪人某、送牧子徹（七律）
- 343 胡弓詞。懷司馬才郎（七古）
- 344 送長伯斐翁扈從。公駕之南紀（七律）
- 345 春晚偶作（七律）
- 346 逐浪丸戰艦歌（七古）
- 347 江上晚歸（七絕）
- 348 秋夜讀書圖。似塾生（七律）
- 349 351 寄広徳寺東流上人（五律三首）
- 352 小樓寓日（七絕）
- 353 356 西圃四首（五古）
- 357 平薩州宿花下圖（七絕）
- 358 留侯（七絕）
- 359 368 華燭引十首（七絕）
- 369 373 秋晚村居雜詠（七律五首）
- 374 雨中移竹（七絕）
- 375 江帆風柳（七絕）
- 376 昼倦（七律）
- 377 海月樓避暑（七絕）
- 378 中秋十三夜（七絕）
- 379 家孫郎墓下作（七律）
- 380 園居秋夜（七律）
- 381 蘆岸秋晴（七絕）
- 382 冬夜書懷。寄海莊翁（七律）
- 383 寒犬吠月（七絕）
- 384 小嶋高德題詩桜樹圖（七絕）
- 385 題睡耳警鐘後（七律）
- 386 秋陰（五律）
- 387 瓶中菊花（明教館課題）（七絕）
- 388 鳴蛩篇（七古）
- 389 春秋亭所見（七律）
- 390 夏昼偶成（七律）
- 香雲樓詩鈔卷之六
- 391 殘月杜鵑圖（五絕）
- 392 394 梨花（七律三首）
- 395 大物浦行（七古）

396 家海莊見贈梅墩集。喜而賦（七律）

397 古仏殿（七古）

398 牛壘行（七古）

399 偶記（五古）

400 401 夏日閑居（七律二首）

402 夏草（七絕）

403 淺草里詠懷古事（七古）

404 409 詠柳六首（七絕）

410 春曉微雨（七絕）

411 觀顯微鏡歌（七古）

412 413 角田川懷古（七絕二首）

414 戊申正月、山園小集。招海莊山人及霞峰子、同飲大梅

樹下。今春王月、山人在南紀。追想昨遊、賦長古一篇

見贈。余朗誦一過、一堪感賞。即走筆次其韻鳴謝（七古）

415 題猩猩酣醉舞踏圖。寿亀井猩猩齋（七古）

416 歲杪夜坐（七絕）

417 418 香奩体二首（七絕）

419 420 歲晚書事（七律二首）

421 妬鬼詞（七古）

422 423 清明（七律二首）

424 426 鷄旦雜述（七律三首）

427 美人鬪雪。西昆体（七古）

428 美人晏起圖（七律）

429 晚春絕句（七絕）

430 花後過寬永寺（七絕）

431 432 春日遊某山莊。摘醉翁亭記中字、成四韻八句（五律二首）

433 初夏偶成（五律）

434 雷雨過（五絕）

435 壳花声（七絕）

436 437 暑甚（七絕二首）

438 六月十二夕、月下露坐（七絕）

439 440 詭海莊集（五古二首）

441 星夕書事（七絕）

442 443 本立尼、余同族也。嘗寄示其家乘及延元勅書檄文。乃賦五絕句記其美（錄二）（七絕）

444 源白石肖像（七律）

445 人日雪（七律）

446 460 中川舟行十五首（五律）

461 467 初冬十一日、陪家君遊王子村、迂途觀楓于滝川。此日怪寒微雨、田物荒涼、紅葉亦七八分、景色絕佳。

乃以霜葉紅於之句為韻、得七首（五律）

468 469 大槻端卿臥遊錄（七絕二首）

470 秋半（七律）

・[評]（塩田松園、長戸讓、大槻禎）

第四冊（三溪文鈔一）

・三溪文鈔序（齋藤竹堂）

※三溪文鈔目次

●三溪文鈔卷之一

471 南海外集序

472 豊臣勲功記序

473 南溟文集序

474 海莊集序

475 霞湖漁唱序

476 統館柳唱和集序

477 童課百絶序

478 帶香園詩稿序

479 送川合梅所先生序

480 送岩橋柳窓序

481 送季弟藏六序

482 送関根子業序

483 送本多生序（代人）

484 送牧子徹序

485 送古岳上人遊松島序

486 贈神原醒梁序

487 貝原君八十寿序

488 上玉城大夫、乞講洋炮書

489 賀海莊山人遇災書

第五冊（三溪文鈔二）

●三溪文鈔卷之二

490 曹參論

491 論平将門・藤原秀郷

492 論藤原園人・善岑安世

493 太子申生論

494 季札論

495 四皓論

496 項羽論

497 柴田勝家論

498 平氏論

499 論頼朝・義経

500 郭巨論

501 板垣信形論

502 細川頼之論一

503 細川頼之論二

504 趙武靈王論

505 關辺陲一

506 關辺陲二

- 507 關辺睡三
 - 508 講洋書議
 - 509 天野広丸伝
 - 510 蒼髯叟伝
 - 511 翠黛伝
 - 512 伶官彦右衛門伝
 - 513 義狭平五郎伝
 - 514 恩田木工伝
- 第六冊 (三溪文鈔三)
- 三溪文鈔卷之二
 - 515 風白月香楼記
 - 516 繞風白月香楼記
 - 517 水影月光楼記
 - 518 粒画記
 - 519 真間国府台記
 - 520 咬菜堂記
 - 521 吞舟窟記
 - 522 龍隱菴記
 - 523 八鳥齋記
 - 524 鉄屏風記
 - 525 仏手柑記
 - 526 松本君先考遺髮記

- 527 霞峰山人墨竹記
 - 528 臨江亭記
 - 529 清正公祠堂記
 - 530 小金橋觀花記
 - 531 君真物記
 - 532 弥陀窟記
 - 533 浮島記
 - 534 松前海嘯記
 - 535 觀不知火記
 - 536 下求麻川記
 - 537 鍾乳洞記
 - 538 鷹巢山
 - 539 伽羅巖
 - 540 和歌浦
 - 541 澤上割記一〜十
 - 542 異鳥記
 - 543 豆腐説
 - 544 案山子説
 - 545 愛鶴説。賀雪峰田中君加秩
- 第七冊 (三溪文鈔四)
- 三溪文鈔卷之四
 - 546 読川角太閣記

- 547 読鴨長明方丈記
 548 読竹堂文鈔
 549 足柄山吹簫図
 550 書濟勝余興後
 551 書平原草廬図
 552 書好古談賢図卷
 553 梅亭画博奇石図跋
 554 平安聚勝帖跋
 555 港洒寓居図巻跋
 556 題那智瀑図
 557 書八幡太郎辺城觀乱鴻図後
 558 孟母断機図跋
 559 漂民録話跋
 560 春月詩巻跋
 561 題蚯蚓呻吟後
 562 書楠公碑陰搨本後
 563 書弓銃弁後
 564 与広瀬旭莊
 565 与茜洲
 566 答塩谷實山
 567 貞斎菊池君墓碑銘
 568 御嶽新道碑銘

 569 祭衡嶽府君文
 570 月喩
 571 碁喩
 ●遊勢奇賞
 572 遊勢奇賞
 第八冊(雨辰余筆)
 ・「序」(菊池梅軒)
 ※雨辰余筆目叙
 ※題言
 ※雨辰余筆目次
 ●雨辰余筆卷之一
 573 与岩橋柳窓副紙
 574 新婦断臂
 575 義舎
 576 北里焚死
 577 都下震倒戸數
 578 浅草浮屠閣
 579 酒舗会飲
 580 貧家女兒
 581 藩士話
 582 蒼鷹獲鷓鴣
 583 災後過水西故墟詩

584 娼妓処置

585 鬻霜柿者

586 諸利脩冥福

587 豪賈賑窮氓

588 湖山外史災後作

589 品海瞰塢（以下四則榭菑洲所記。附而伝之）

590 緇徒殮葬

591 治火水榼

592 浴室罵婦

※雨辰余筆卷之二目次

●雨辰余筆卷之二

593 狐精知災

594 袖中馬毛

595 壺水自出于地

596 城中雨魚

597 盜賊訛言

598 雷公騎神馬避災

599 北里懷古詩

・書雨辰余筆後（関藍梁）

第九冊（草寇紀略）

・叙（塩谷誠）

●草寇紀略

600 草寇紀略

●塩賊紀聞

601 塩賊紀聞

【七】鉄屏書屋小稿（4・03／テ／1貴）

①分量 一冊

②書型 縦二三・〇cm×横一六・二cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ

③丁数 一九五丁

④外題 「鉄屏書屋小稿 全」（表紙左肩、打付書、子持枠を書いた中に隸書で記す）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 種々の詩文稿を綴じ合わせたもの。収録作のうち、最も古いものは弘化四年（一八四七）作、最も新しいものは明治十二年作。

⑧目次

1 広瀬遠図伝

2 清正

3 防火

4 書十四世大君御筆書幅函蓋。溝口君囑（壬戌六月初九）

5 海外貨幣小譜序（癸亥六月十九日脱草）

6 請開国史編輯局書

7 書観月余適後。磐溪老人著

8 春立之日、賀林君采遷（七絶）

9 歳晚尾張街即囑（七絶）

10 文城広沢生、評点余旧稿、所寄詩。以鳴謝（七律）

11 吹上外苑観黄豹兒（七絶）

12 溪莊十集、分韻得松字（七絶）

13 庚申十一月初五、举一女兒、晚酌自記喜（七律）

14 老狸掲陰囊渡水函（壬戌六月念六稿。徳永氏属）

15 晴雪樓文話序

16 乘兕行（七古）

17 六月十八日、驟雨。家君有詩所示。乃用其韻（七絶）

18 新涼（癸亥星夕午前脱草）（五律）

19 半斎摘稿序

20 ～ 22 中元書懷（七絶三首）

23 静軒記

24 老驥行（七古）

25 老驥行（七古）

26 嚶鳴集第七輯序

27 根岸氏六世珍政墓誌銘

28 嚶鳴集第七輯序

29 根岸珍政墓碣銘

30 作文在邇序

31 縁崎容堂上人、喜余詩、嗟賞弗舍。終臻鈔梓其一斑、以嘉惠同人。感銘不啻、賦一詩鳴謝焉（五古）

- 32 古沢翁碑陰記
 33 与信夫文則書
 34 焚書坑儒說
 35 信夫寛一郎墓碣銘
 36 読三蘇文
 37 関城碑
 38 竹楼詩存序
 39 上參謀某公書〈代人〉
 40 与秋葉士栄書
 41 送信夫文則之江門序
 42 怨軒医話序
 43 瀧澗記
 44 作文在瀨序
 45 輦轂集序
 46 古沢翁習礼弟子姓名碑陰記
 47 宝生弥五郎伝
 48 俳優市川栢筵伝
 49 答秋葉士栄書
 50 三浦氏五世画像記〈乙丑六月廿日脱草〉
 51 織田右府論
 52 焚書坑儒弁一〈九月十五日草〉
 53 焚書坑儒弁二〈同〉
- 54 焚書坑儒弁三〈九月十六日草〉
 55 論孟子制民産
 56 臥龍梅記
 57 読論語
 58 唐太宗論
 59 石田三成論
 60 奉陸軍總裁兼閣老松前侯書〈戊申十月廿二日夜五更脱草〉
 61 积養堂詩集序
 62 下澳水記
 63 馬援論〈八月十九日草〉
 64 馬援論〈巳八月十七日脱草〉
 65 割烹店〈丁卯二月廿六日草。此日微雨〉
 66 猴稚坊
 67 神楽
 68 曲馬〈五月五日稿〉
 69 人力車
 70 写真鏡
 71 博覧会
 72 電信機
 73 春秋左伝講義卷之一
 74 跋高山正之書牘後

*一三四丁表一〜二行目「晴雪楼存稿／菊池純子顕著」とあり。

75 蝦蟇巖記

76 曲亭馬琴伝

77 信夫寛一郎墓碣銘 ㊦

78 陵川楼記

79 題司馬君実撃甕図

80 玉石彙伝序

81 晃山廟拝記行跋（十一月之二日草）

82 灯喻（癸亥十月初七脱草）

83 古田織部斲弄古器

84 沿革兵論序

85〜86 観菊二首（成憲閣詩題）（七絶）

87 秋穫喜晴（同）（七絶）

88 雁来紅（一名老少年）（七絶）

89 八幡公辺城見乱鴻図（七律）

90 寒林遠岫（十月二日午後草）

91〜92 詠史絶句（同）（七絶二首）

93 奉謁参政秋月公、恭賦鄙詩一章、呈下執事（七律）

94 寒塘小景（十月初七灯下脱草）

95 負暄（十月廿五夕稿）（五律）

96 寒柳（七律）

97 至日偶成（十月晦夕）（七絶）

98 冠屨倒置図（七古）

99 「冠屨倒置図」（七古）

100 宗任詠梅花図（七古）

101 十月十八日、訪確堂島子于春声楼。楼上劇談飲甚。賦呈主人（七律）

102 読寧磨考。似大淵祐元国手（七古）

103 十二月十九日夕、枕上聽雨（七絶）

104 夜梅（以上二首、蜡月二十日脱草）（五絶）

105 校正祖公外記序

106 馬上雪行記

107 送宇佐美某序

108 送丸山竹所序

109 書桃源僊蹟図卷後

110 書朱晦菴先生墨蹟卷後

111 織田右府論

絶句小論

※「姓名、字、号、生年を記す」

112 桃花牧牛図（七絶）

113 春雨即事（七絶）

114〜116 詠唐宋名家（七絶二首）

117 名妓地獄坐禪図（七絶）

- 118 霜夜望月（七絶）
 119 〓 127 谷莊幽居雜詠（七絶九首）
 128 秋柳（七絶）
 129 読勢語（七絶）
 130 一休禪師携鬪體図
 131 〓 132 紙貴二首（七絶）
 133 夜読（七絶）
 134 陶侃運甕図（七絶）
 135 小春（七絶）
 136 京城清明（七絶）
 137 〓 138 詠十二支（今録其二）（七絶二首）
 139 〓 140 道灌山聞虫二首（七絶）
 141 〓 150 観捕鯨図卷（七絶十首）
 151 〓 155 詠今古英雄関係于文雅者（七絶五首）
 156 加藤肥州刺虎図（七絶）
 157 読浜田弥兵衛伝（七絶）
 158 読金忠輔伝（七絶）
 159 〓 160 橋場舟中、聞杜鵑二首（七絶）
 161 〓 166 論画絶句（七絶六首）
 『内演第五稿』
 167 賽珊瑚（七律）
 168 秋懷（七律）
 169 聘猫（五古）
 170 寒山行旅図（五古）
 171 秋柳（七絶）
 172 哭南華山人（七絶）
 173 読勢語（七絶）
 174 一休禪師携鬪體図（七絶）
 175 夜読（七絶）
 176 〓 180 中秋無月。書感（七絶五首）
 181 〓 185 偶感（七律五首）
 186 俳優某打扮大石良雄図（七絶）
 187 岳飛（七絶）
 188 張翰（七絶）
 189 菟水先登図（七絶）
 190 題葛西生詩稿、送其還東奥（七古）
 191 装復行（榎樹在王子村田塍間）（七古）
 192 停車坐愛図（七絶）
 193 宋哲宗避虫蟻図（七絶）
 194 〓 195 紙貴（七絶二首）
 196 石崇碎珊瑚図（七絶）
 197 明妃嫁胡図（七絶）
 198 陶侃運甕図（七絶）
 199 百鬼夜行図卷題詞。双韻体（七古）

200 天窟百神奏神樂図（七古）

201 ～ 203 読義人録二首（七律）

204 山本道鬼像贊（七古）

205 歩真光精舍後園。園有小茶寮。締構清雅。蓋出不昧老

公意匠（七律）

206 乘晴（七律）

挿話

207 ～ 207 浅草觀花（七律二十一首）

208 東都市中、有彈三絃乞錢女。破瓜前後、紅腔紫韻。陸

続千街頭、花時最多。其狀可憐。俗名女大夫（七古）

209 題北条高時夜宴図（七古）

210 詠夢（七律）

211 詠影（七律）

212 ～ 214 丁巳正月十日夜、因公事騎而出、途上墜於馬。是

夕、立春明日、偶有遷官之命。因記異（七律三首）

215 二月遊墨水（七絶）

216 篠池作（七絶）

217 春雨途中作（七絶）

218 読某文集書其後（七絶）

219 春夜、過浩齋飲。席上有糟香魚、五位鷺羹。因賦一篇

呈先生（七古）

【八】簾鬢集（4・03 / レ / 1 巻）

①分量 三卷二冊

②書型 縦二一・六 cm × 横一三・一 cm、肌色布日表紙、四

つ日綴じ、改装本（薄紙表紙一冊本に、厚紙表紙

を付けて綴じ直している。第二冊の薄紙表紙は見

返しに貼付。）

③丁数 第一冊二四丁、第二冊一八丁

④外題 第一冊「簾鬢集（乾）」（表紙左肩、打付書）、「簾

鬢集 乾」（一丁日薄紙表紙左肩、打付書）、第

二冊「簾鬢集卷二（菊池三溪稿本）」（表紙左肩、

子持梓書き題簽）、「簾鬢集 坤」（見返しに貼り

付けられた薄紙表紙左肩、打付書）

⑤内題等 第一冊内題「簾鬢集卷之一」「二」、第二冊内

題「簾鬢集卷之二」

⑥序跋 自序「簾鬢集叙」（元治元年三月）

⑦備考 第一冊は詩、第二冊は文を収める。第一冊巻二第

一首「暁桜」詩の題下に「以下癸亥稿」と記す。

癸亥は文久三年。したがって第一冊は文久年間の

詩集と思しい。

⑧目次

第一冊

※簾鬢集叙

●簾鬢集卷之一

1 5 2 勿來閑函（七絶二首）

3 小桜（七絶）

4 春鶯嘒曉（七絶）

5 5 6 新正第三夕、拜觀伶官奏散樂（七絶二首）

7 5 12 晴雪樓雜詠六首（七絶）

13 読広瀬青村贈家大人長句、賦此贈（七律）

14 連日風旱、二月廿一日、始雨（七律）

15 春晚（七律）

16 星夕前二日、小樓晚酌、書懷（七律）

17 副墨行（七古）

18 七月六日、晚間驟雨（七絶）

19 5 20 中元前三夕、邀仲弟西樓賞月（七律二首）

21 涼雨竹窓函（五絶）

22 花後過寬永寺（七律）

23 賀某生新婚（七律）

24 菴山熊沢先生像（七絶）

25 寒夜過白虎門（七絶）

26 送倉田袖岡歷岐岨還南紀（七律）

27 寬猛相救函。送古山某之新瀉（七古）

28 5 29 二月三日、妙境院所囑（七律二首）

30 吹上外苑觀黃豹（七絶）

31 溪莊小集、分韻得松字（七絶）

32 5 33 新正第三夕、大城拜觀伶官奏散樂（七絶二首、重出）

34 春夕微雨（七絶）

35 文章星函（七絶）

36 春夕微雨（七絶、重出）

37 謙叁河尻君、頃日購得林園月令一函、令予題其函蓋。函大三、四寸、卷秩亦稱之。清麗奇秀、無物之可狀。可謂才人必說之奇篇、名士文房之珍翫也（七律）

38 存叁新見君、藏紫端硯一枚。秀潤滑泚、能発墨色。蓋今大君加冠盛典、恩賜之余光、所購得。繼有脩史之命。乃賦小詩以刻其蓋背（七律）

39 偶感（七律）

40 秋晚露坐（七絶）

41 松山懷古（七古）

42 5 43 落葉（七律二首）

44 秋涼（七絶）

45 胡枝花（七律）

●簾鬢集卷之二

46 曉桜（以下癸亥稿）（七絶）

47 聞人乘火輪船（七絶）

- 48 桃花放牛圖（七絕）
- 49 蝶衣（七律）
- 50 背面美人圖（七絕）
- 51 53 誦友人兩園觀象詩（原四）（七絕二首）
- 54 觀村童撓竹戲製水碓（五古）
- 55 57 家梅軒大人、手折其園池藕花所惠。賦呈（原四）（七絕三首）
- 58 乞雨行（有引）（七古）
- 59 六月十八日、快雨。次家君韻（七絕）
- 60 新涼（五律）
- 61 棄兒行（七古）
- 62 64 中元書懷三首（七絕）
- 65 点滴（七律）
- 66 秋穫喜晴（七絕）
- 67 68 觀菊二首（成憲閣課題）（七絕）
- 69 八幡公辺城見乱鴻圖（七律）
- 70 寒林遠岫（五絕）
- 71 72 詠史二首（七絕）
- 73 雪意（七絕）
- 74 奉謁參政秋月公、恭賦鄙詩一章、呈下執事（七律）
- 75 76 寒塘小景二首（五絕）
- 77 負暄（五律）
- 78 寒柳（七律）
- 79 至日偶成（七絕）
- 80 十一月六日、早朝侍講、命臣純誦貞觀政要。感銘之余、恭賦鄙詩一章、記其寵榮（七絕）
- 81 秋夜書懷（七律）
- 82 冠屨倒置圖（七古）
- 83 仲冬十三日、昌平覺見早梅（七絕）
- 84 誦馨磨考。似大淵国手（七古）
- 85 十一月十八日、訪確堂島子春声楼。楼上劇談、歛甚。賦呈主人（七律）
- 86 十二月十九日夕、枕上聽雨（七絕）
- 87 宗任詠梅花圖（七古）
- 88 比歲物価騰貴、偶有此作（七絕）
- 89 98 茜坂竹枝（七絕十首）
- 99 苦熱（七絕）
- 100 折園花呈家大人（七絕）
- 101 夜梅（五絕）
- 102 范蠡泛湖圖（七絕）
- 103 懸崖雪竹圖（七絕）
- 第二冊
- 簾鬢集卷之二
- 104 晴雪楼文話序

- 105 玉石彙伝序
- 106 沿革兵論序
- 107 海外貨幣小譜序
- 108 春声楼記
- 109 灯諭
- 110 創文社引
- 111 題画雜記四則

【九】晴雪楼文話（4・04／セ／1 貫）

- ①分量 三卷一冊
- ②書型 縦一九・四cm×横一二・四cm、縹色表紙、四つ目綴じ
- ③丁数 四七丁
- ④外題 「晴雪楼文話（自卷一至卷三）全」（表紙左肩、単梓書き題簽）
- ⑤内題等 内題「晴雪楼文話卷一」「之二」「之三」
- ⑥序跋 三溪「題言」（慶応元年）、松影道人「題詞」
- ⑦備考 内容は随筆、全八二段。
- ⑧目次

※題言

・題詞（松影道人「三溪菊池君真臨、喜而賦此」（七律二首））

●晴雪楼文話卷一

- 1 「家康、蟹江ノ役ニテ檄文ノ「將」字ヲ刪セシム」
- 2 「秀吉、韓語ヲ知ル者ニ文書ヲ掌ラシムルヲ大喝退ク」
- 3 「創文社引」
- 4 「実事ヲ記ス文 高崎松本子恭「橋断記」」
- 5 「松影老師」
- 6 「岩月石川生別墅筋亭ニテ、松影老師、勁堂法主ト二

聯ヲ製ス

- 7 [角兵獅子詩]
8 [齋藤子徳、大槻端溪]
9 [読書攻文、須在人定鐘後]
10 [徒然草]
11 [小野湖山下甲子夏晩、吉田駅ニ邂逅ス]
●晴雪楼文話卷之二
12 [作文ハ一字ノ乗除ニ意ヲ用フベシ]
13 [唐宋八大家ノ文、廃スベカラズ、泥ムベカラズ]
14 [天覆地載、俯仰上下、莫適不一大活潑文章]
15 [創文社引]
16 [以下三段ノ序]
17 [齋藤士徳、大槻端卿]
18 [齋藤士徳]
19 [士徳「孟浪語」中ノ文論]
20 [士徳「蓬桑録」中ノ嵐山・高雄ニ遊記]
21 [大槻端卿]
22 [良齋「丹海刻仏殿記」、山陽「象墜記」]
23 [粒画記]
24 [松影老師]
25 [松影老師詩]
26 [巖月石川が舫亭ニテ律詩ヲ合作ス]
27 [角兵獅子詩]
28 [小野湖山下邂逅]
29 [読書攻文、須在人定鐘後]
30 [鳩峰、香国、幽石ノ詩]
31 [勁堂]
32 [勁堂「聞異舶砲声有感」]
33 [松庵・松堂二師]
34 [越後兎北溟「古愚堂詩鈔」]
35 [山水記 山陽「耶馬溪記」、良齋「石廊記」]
36 [長野豊山「奇石亭記」]
37 [澗澗記]
38 [案山子説]
39 [塩田松園]
40 [菊池衡岳、西皐、梅軒]
41 [酒ハ少壯、宜シク慎シム可ク、文ハ老大、宜シク精思ス可キト]
●晴雪楼文話卷之三
42 [詩筆ノ徳]
43 [文章ノ秘訣ハ簡一字 本多重次「才仙泣カスナ」ノ手紙]
44 [以下六段ノ序]
45 [下野那須城ノ守将大関夕安、古歌ニヨリ兵ヲ収ム]

- 46 [鉄屏子評語]
- 47 [細川藤孝、古歌ニヨリ敵ノ未ダ遠ク逃レザルヲ知ル]
- 48 [鉄屏子評語]
- 49 [道灌、歌ニヨリ潮ノ干満、淵瀬ヲ弁ズ]
- 50 [鉄屏子評語]
- 51 [文ノ照応、山影落水、倒影在樹ノ如シ]
- 52 [文ノ波瀾、水ノ波瀾起伏、山林ノ雲煙变幻ノ如シ]
- 53 [文ノ結構、工師ノ家堂ヲ造ルガ如シ]
- 54 [文ノ伏線、水ノ委流曲折、隱見シテ遂ニ海ニ注グガ如シ]
- 55 [文ハ重複ヲ忌ム。雲藩荻野鳩谷、樺石梁ニ忠臣蔵ヲ引イテ説ク]
- 56 [無用ノ書ノ用、無心ノ人ノ志、知り難シ]
- 57 [山陽、梅花水仙ノ時ヲ著述成績ノ候ト為ス]
- 58 [一斎「杉田記」、拙堂「月瀬記」]
- 59 [梅花詩ノ精髓、林君復、高青丘、林二恥ノ三者アルノミ]
- 60 [林逋、高啓、林二恥ノ梅花詩]
- 61 [小説ノ利害]
- 62 [中井氏「逸史」、ト山陽「外史」]
- 63 [山陽、白石ヲ推服スルコト]
- 64 [白石]
- 65 [国字之書]
- 66 [火災ノ記 良斎「答芳川波山別紙」]
- 67 [塩谷守誠「記弘化乙巳災」]
- 68 [齋藤竹堂「治火議」]
- 69 [震災之記 塩谷實山「記丁未信州地震」]
- 70 [乙卯都下震災記]
- 71 [高崎松本子恭記永代橋断]
- 72 [作文ノ季節・環境、四宜ト四不可]
- 73 [作文ノ作法・構思・推敲・添削]
- 74 [夏曉、課業スベキコト]
- 75 [秋夕、著書作文ニ最モ適ス]
- 76 [冬晴、一年ノ所作ヲ淘汰整理シ、一集ト成ス]
- 77 [作文、柳儀曹ガ「舟行如窮忽又無際」ノ句ニ似タリ]
- 78 [京伝、馬琴]
- 79 [馬琴履歴]
- 80 [馬琴、小説ノ趣向ヲ独語シ、下婢ヲ恐レシム]
- 81 [詩人ニ於ケル類例 夜航余話]
- 82 [無何有、不立文字ノ旨深シ]

【十】学聚堂雜稿（4・05／カ／2貴）

近世三篇

①分量 一冊

②書型 縦二二・七cm×横一五・七cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ

③丁数 一五三丁

④外題 「学聚堂雜稿 全」（表紙左肩、打付書、子持枠を書いた中に隸書で記す）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 種々の詩文稿を合綴したもの。製作年次の最も古いものは嘉永六年、新しいものは明治十五年。『毛詩』『論語』『左伝』などの講義手控えと思しきものなどを含む。

⑧目次

- 1 「毛詩諸注抜書」
- 2 「論語諸注抜書」
- 3 増訂古文真宝序
- 4 統兵要録序
- 5 半斎摘稿序
- 6 熙朝名家文粹序
- 7 ～ 8 詠史（七絶二首）

9 蝦蟇巖記

10 左氏戦国考序

11 曲亭馬琴翁伝』

12 紀事二則（以下三則叢語、十月念八鈔撮）

13 紀事一則

14 紀板倉重宗

15 「紀事二則」

16 紀板倉氏事

* 五一丁表一行目「成憲閣席上」とあり。

17 遠山時雨（倭歌題）（七絶）

18 おなじ題にて（和歌）

19 残菊（七絶）

20 おなじころを（和歌）

21 月前千鳥（七絶）

22 おなじく（和歌）

23 落葉満水（七絶）

24 おなじころをよめる（和歌）

25 ～ 26 詠史二首（同宿題）（七絶）

27 ～ 28 寒塘小景二首（五絶）

29 十一月六日早朝、待講、命臣純誥貞観政要。感銘之余、
忝賦鄙一章奉献、記其寵榮（七絶）

- 30 仲冬十三日、昌平巖見早梅（七絶）
- 31 雪意（七絶） 『香雲樓詩話』
- 32 棕軒詩話
- 33 曲亭馬琴翁伝
- 34 恕軒文稿序
- 35 登筑波山記一
- 36 自山下抵山上記二
- 37 雄峰記三
- 38 雌峰記四
- 39 禁苑觀舞樂記
- 40 関城碑
- 41 関城碑
- 42 関城碑
- 43 ～ 49 観梅游記一 ～ 七
- 50 従能見同眺金沢八勝記
- 51 金沢四時総宜亭記
- 52 序
- 53 浄海頭（七古）
- 54 飯粒墜（七古）
- 55 瓶子仆（七古）
- 56 除夜雪（七古）
- 57 竹枝兮（七古）
- 58 箴挿梅（七古）
- 59 黄八幡（七古）
- 60 傘工児（七古）
- 61 繰糸（七古）
- 62 十二史（七古）
- 63 土窟（七古）
- 64 眉（七律）
- 65 髮（七律）
- 66 耳（七言三句、中絶）
- 67 十三夜、月色奇明、小楼独坐（七律）
- 68 价塩田老人需画於晴湖女史、勝以此詩（七古）
- 69 義人酒・歌（七古）
- 70 『左伝襄公十四年拔書』
- 71 『左伝襄公十四年拔書』
- 72 晋侯使吕相絶秦（魯成公十三年）
- 73 『蒙求「仇覽棲鸞」拔書』
- 74 『蒙求「楊修捷对」拔書』
- 75 『左伝桓公九年・同十二年拔書』
- 76 逆櫓（大日本史）
- 77 逆櫓（日本外史）
- 78 逆櫓（国史略）

- 79 宗高〈大日本史〉
80 宗高〈外史〉
81 宗高〈国史略〉
82 大江匡房列伝〈日本史〉
83 米山
84 「礼記礼器篇拔書」
* 一一二丁表一〜二行日「訳準綺語卷之二／平安 二溪
居士著」とあり。
85 円塚山火定 八犬伝
86 ～87 円塚山第二〜三 』
88 西村重達義挙碑
89 志随軒翁墓表
90 常陸国真壁郡伊佐荘五所明神祠碑
91 大久保七郎左衛門忠教墓表
92 信夫寛一郎墓碣銘
93 西村重達義挙碑
94 常州真壁郡関本村稻荷祠碑
95 志随軒翁墓表
96 睹壮日札題詞
97 住谷兄弟報讐事
98 小島彤山伝
99 書明盧忠烈公真蹟書幅後

【十二】学聚堂遺稿（4・05／カ／3貴）

①分量 二冊

②書型 上冊縦二四・〇cm×横一六・三cm、下冊縦二四・

二cm×横一六・三cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ

③丁数 上冊一二六丁、下冊七二丁

④外題 「学聚堂遺稿 上（下）」（表紙左肩、打付書、子
持粹を書いた中に隸書で記す）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 種々の詩文稿を合綴したもの。製作年次の最も古
いものは慶應元年、新しいものは明治二十四年。

おおむね明治以降の作であり、特に最晩年のもの
を多く収む。

⑧目次

上冊

近業小稿

1 老谷書屋記

2 水確説

3 和田珪太郎伝

4 信夫寛一郎墓碣銘

5 孔方先生伝

6 晏子之事

7 晋茫之事

8 平重盛

9 菅茶山逸事（詩屏風二幅 明治廿一年十一月六日抄録）

10 頼山陽逸事（同上）

11 広瀬旭莊詩（同上）

12 采葦説

13 読航米日録（七古）

14 蛭吻考

15 鶴鳴枕歌。賦貽花月楼主人（七古）

16 琴鶴帖跋

17 源三位頼政郷遺蹟之碑

18 日柳燕石追悼詩文集序（甲申二月十九日草）

19 ～ 20 移居二首（七律）

21 ～ 22 「無題」（七律二首）

23 謙信（七絶）

24 義仲（七絶）

25 燕子花図。為某生囑（七絶）

26 秋曉（七絶）

27 黄石岡本先輩招飲。分五柳精廬四字、同大沼枕山、丁

野丹山賦。予得柳字。明治壬午五月初八日也（七律）

28 春晚書懷（七律）

29 読黄石斎詩集、書其後、送岡本詞宗西帰（七古）

30 送春江堀川君之豆州、教授其郷校（七古）

31 牽牛花（七律）

32 題画絶句（七絶）

33 標注通語序

34 35 過廢園有感（七絶二首）

・「『享年』ノ語ノ用法ヲ問フ書」（作者未詳）

・跋送菊池三溪先生序（木崎愛吉）

・明治廿二年四月下浣、在兵庫養志堂、始見広瀬宰平君。

君時將遊欧米期已近。堂主人光村君索余詩、壯其行（七

戸、堤静齋）

37 「広瀬遠図伝」

・馬夫徳藏伝（橋本蓉塘）

・大島忠衛伝（橋本蓉塘）

・鍛工半左伝（橋本蓉塘）

・坐睡茶碗（橋本蓉塘）

・幽谷先生伝（橋本蓉塘）

38 欧洲新劇断腸花叙

39 小学日本史序

40 以飛走、編入于部伍、亦可以助兵勢

41 記実事、国史略、反勝於外史

42 論渡辺橋・三形原戦

43 読三蘇文

44 「方丈記本文ノ書写」

45 明治三刺客伝

46 書英人芙蘭騏驎十二則後

47 題風来月至集首

48 小学美用書牘文叙

49 金沢懷古詩引（四六文）

50 皇朝六家詩鈔序

51 書梅田雲浜書幅後

52 書松木操記念碑後

53 与五十川初堂

54 書南海先生手書詩卷後

55 真宗聖教字鈔序

56 雁魚卷題碎

57 書林羅山先生書幅後

58 遊囊詩踪題詩

59 書林羅山先生墨蹟後（辛卯八月十七日稿）

60 書菅茶山翁詩稿後（同上）

61 書依田百川馬溪游記後

62 書林羅山先生書幅後

63 遊囊詩踪題（八月二十一日草）

64 「詠史」（七律）

- 65 「朝爽夕佳樓記」
 66 「書依田百川馬溪游記後」
 67 新塞（讀史戰論）
 68 竹雨山房文鈔序
 69 開化帖題詞
 70 三声村舍唱和集題辭
 71 嶽蓮帖題辭
 72 雅人之友題詞
 73 備前長光古槍鋒記（代貫名氏）
 74 ～ 76 月瀨紀游一 ～ 二
 77 水中花影自序
 78 南陔遺稿序
 79 題九如集卷首
 80 滬吳游記序
 81 題追遠集首
 82 題辭（79 題九如集卷首とほぼ同文）
 83 蟠龍書屋記
 84 真鍋君墓碣銘
 85 浮島記（訳橋南溪東游記）
 86 故待医局勤務達齋大村君墓碣銘
 87 采草説
 88 真鍋君墓碣銘

- 89 鳳鳴齋記
 90 小木山記
 91 中川小石伝
 92 民法疏義序（代箕作氏）
 93 書浮屠月性伝後
 94 書香谷山水画帖後（庚寅十月二十九日）
 95 書香谷山水画帖後
 96 書爪痕画卷後。為北越清野氏
 97 八洞山記
 98 天橋記
 99 北辰館記
 100 書祇南海手書詩卷後
- 下冊**
- 101 本朝故事成語考
 102 本朝故事成語考卷之一
 103 日本外史経世鈔卷之一
 104 ～ 115 詠近世名公（七絶十二首）
 116 謝友人贈竹孫啓
 117 牧牛図（録近芸充課題）（七絶）
 118 二月十六夜、夜半酒醒。月色奇明、觀樹影上窓、皆作
 奇鬼猛獸狀。援筆写其所見（七古）
 119 作文図式序

- 120 教則千字文序
- 121 文章軌範質問録序
- 122 古経堂詩文集序
- 123 〓 〓 萊山堂主人、設茗宴于東山知恩精舎、陳古器、奏
明清楽。蓋為先人脩薦事也。索詩于予。乃題其雲煙図
録、以塞責（七絶二首）
- 126 希伯来書註釈序
- 127 春日村莊十勝小記
- 128 訳中川水莊微行（源語帯木卷）
- 129 書詩画卷後
- 130 万国記註国史略序
- 131 送半山国重君赴任于外山県序（癸未六月十二日草）
- 132 万国記註国史略序
- 133 旭川詩鈔序
- 134 野添篤緒君墓誌銘（代大浦氏）
- 135 不朽社文話引
- 136 竹雨山房文録序
- 137 松園塩田先生墓表（辛未十月廿八日草）
- 138 書四十七士伝後
- 139 読婦去来辞
- 140 送友人遊外国序
- 141 孟嘗君論
- 142 士説
- 143 商鞅論
- 144 方孝孺論
- 145 顔真卿論
- 146 書薩藩横山某死諫疏後
- 147 魯仲連論
- 148 葛城柘植先生伝
- 149 孝妓二鶴伝
- 150 灯籠堂碑
- 151 邁寛矢野君墓碑銘
- 152 「皆山楼ノ記」（漢字カナ交じり）
- 153 書航米日録後、呈新見使君（七古）

【十二】 口碑録 (4・05/コ/1貴)

- ①分量 一冊
- ②書型 縦二五・三cm×横一六・〇cm、肌色布目表紙、四つ日綴じ、改装本(薄紙表紙一冊本に、厚紙表紙を付けて綴じ直している)
- ③丁数 一七丁
- ④外題 「口碑録(菊池三溪稿本)」(表紙左肩、子持粹書き題簽)、「口碑録」(二丁日薄紙表紙左肩、打付書)
- ⑤内題等 内題「口碑録」
- ⑥序跋 なし
- ⑦備考 国史上の逸話の漢文訳。明治三年五、六月の稿。
- ⑧目次
 - 1 謙信聴平語(庚午五月十日記)
 - 2 刀工近江(庚午五月十一日記)
 - 3 祥刑記 板倉氏正記
 - 4 祥刑記

【十三】 三溪遺稿 (4・05/サ/1貴)

- ①分量 一冊
- ②書型 縦二二・〇cm×横一四・六cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ
- ③丁数 一四四丁
- ④外題 「三溪遺稿 全」(表紙左肩、打付書、子持粹を書いた中に隷書で記す)
- ⑤内題等 なし
- ⑥序跋 なし
- ⑦備考 明治十九〜二十一年の種々の詩文稿を集めたもの。
- ⑧目次
 - 1 友月齋記
 - 2 甘香園記
 - 3 鉄翁禪師墓碣銘
 - 4 鉄翁禪師墓碣銘
 - 5 櫟山詩存序
 - 6 游雲硯記
 - 7 船山草場先生墓誌銘
 - 8 船山草場先生墓誌銘
 - 9 大野郡二孝女碑

- 10 送楠齋片桐君赴任北越序
 11 蜻尾堂記
 12 書觀梅詩卷後
 13 三溪雜誌引
 14 幡隨院長兵衛伝
 15 楓園和田君墓誌銘
 16 佐藤孺人墓誌銘
 17 堺港浚鑿紀功碑
 18 隅田川觀水軍士官試水雷火技、賦际大島怡齋（七古）
 19 ～ 33 浪速竹枝（七絶十五首）
 34 〔写依田百川書〕
 35 照英田村君招魂碑銘
 36 冬青館記
 37 鉄翁禪師紀念塔銘
 38 ～ 43 瀨紀游一 ～ 六
 44 明治十八年澗河洪水紀念年碑銘
 45 明治十八年澗河洪水碑銘
 46 明治十八年澗河洪水碑銘
 47 大野規周君壽藏碑銘
 48 不朽社文話引
 49 十八史略積義序
 50 通俗朝日旗風序
- 51 櫟山詩存序
 52 遊雲硯記
 ・ 訳準綺語序（依田学海）
 ・ 序（石津灌園）
 53 四月十一日（五律）
 54 桃（五絶）
 55 春寒（七絶）
 56 韓信（七絶）
 57 項羽（七絶）
 58 司馬牛（七絶）
 59 常盤（七絶）
 60 一月四日、次石津灌園見贈詩韻却寄（七律）
 61 三月十日、錦谷相良君招飲。用主人韻送其赴任于鹿兒島（七律）
 62 春雨書事（七絶）
 63 菜花（七律）
 64 柿（五絶）
 65 楓園和田君墓碣銘
 66 古経堂詩文集序
 67 雲来詩鈔第二集序
 68 修国史略記
- 氷中花影

※水中花影引

69 幡隨院長兵衛伝 実事譚

70 小山田庄左衛門伝 』

71 凡例（「訳準綺語」凡例カ）

72 蜻尾堂記

73 「富原周峰句、森春濤評語、内田凌雲詩拔書」

74 政海艶話序

75 琵琶帖跋

76 双蝶争一花 春色辰巳園

* 一一四丁表一行日「瓊橋余稿 三溪老漁手輯」とあり。

※自序

77 一月十日、城南所見（七絶）

78 二月十一日、月色奇明、梅影在窓、獲一絶句（七絶）

79 京城客舎書事（三月六日作）（七絶） 』

80 題楊舟画鷹図

81 書沈石田画幅後

82 采葦説

83 答土屋伯毅書

84 秋尽（七絶）

85 ～ 87 浪華都門雜詠（七絶三首）

88 興文新誌序

89 前島村堤防再修碑

90 修国史略記（中絶）

91 楓園和田君墓表

92 欲隆蘆田君墓誌銘

93 皇朝古今小品文粹序

94 不朽社文話引

95 友月堂記

96 「訳文断片」

97 松影詩文集序

98 雲来詩抄二編序

99 修国史略記

100 大野規周君寿歳碑銘

101 阪田小湖翁寿冢碑銘

102 凡例三則

103 小学日本史序

104 頼政論

105 簿記学自修引

106 明治二十四才人絶句序

107 標註国史略訳解題詞

108 興文新誌序

109 政海艶話序 』

【十四】三溪余稿（4・05／サ／2貴）

①分量 一冊

②書型 縦二六・七cm×横一八・六cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ

③丁数 二二九丁

④外題 「三溪余稿 全」（表紙左肩、打付書、子持枠を書いた中に隸書で記す）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 種々の詩文稿類を合綴したもの。収録作で製作年次のもつとも古いものは明治四年、新しいものは明治二十一年。明治十年前後の作が多い。三溪の詩文稿のみでなく、五十川淵の文集編集を念頭に置いた評語、土佐の人三浦竹荘の詩稿など別人の手になるものを含む。表紙と一丁日の間に「三溪余稿 一冊」と書いた紙が挟み込まれている。

⑧目次

1 富島氏墓誌銘

2 謙信論

3 真田昌幸論

4 郡県論一

5 佐藤貞子伝

・記賢婦佐藤氏事（依田学海）

6 佐藤孺人墓誌銘

7 悼亡。為槐園佐藤君（七律二首）

・為佐藤槐園悼亡（鱸松塘、七律二首）

・佐藤貞子、有才無命。賦之寄哀（中村敦宇、七律）

・佐藤槐園君、為其室求輓詞。乃賦贈（依田学海、七律）

・悼秀閣佐藤氏亡、贈良人槐園君。氏有遺子、三四故及（三島中洲、七絶）

・追悼佐藤貞子君。為槐園盟台（小野湖山、七律）

・悼亡。代佐藤雅兄作（森春濤、七律）

・悼亡。為槐園賢契（向山黄村、七律）

・佐藤女史輓詞（溝口桂巖、七絶二首）

9 標註史記読本序

10 新刻広益玉篇序

11 一串上田先生墓碣銘

12 渭洲梅原君墓碣銘

13 八阪神祠新築文庫碑銘

14 故正林寺主浩然師墓誌銘

15 八阪紙祠新築文庫碑

16 八阪神祠新築文庫碑

17 代麴秀才答某生書

- 18 答山田子静書
 19 与市村春卿書
 20 曲馬師小金（消夏雜誌）
 21 消夏雜誌 一眼寺 第二号
 22 消夏雜誌 吉野伝 第二号
 23 消夏雜誌 吉野伝 第四号
 24 消夏雜誌 吉野伝 第五号
 25 消夏雜誌 一眼寺 第一号
 26 偶然居記
 27 ～ 30 遊高尾山記一～四
 31 弥陀窟記
 32 粒画記
 33 清二十四家文録序
 34 四顧皆花楼記
 35 聖林唱和集題辭
 36 寿大谷大教正六帙序
 37 字林大全序
 38 新撰以呂波字引叙
 39 書松蔭吉田先生送兒玉泰卿遊九国叙榻本後
 40 十七種素芳堂記
 41 曲馬師論贊再考
 42 仏手柑記
 43 文通自在叙
 44 自問自答序
 45 与高瀬川子水書
 46 題輕気毬図
 47 京華新誌題詞
 48 京華新誌題詞
 49 京華新誌題詞
 50 西京繁昌記題辭
 51 緑飲楼二十四勝詩帖跋
 52 題蓮月尼肖像
 53 真草字引題辭
 54 鉄馬遺響題詞
 55 新刻幼学詩韻・詩語碎金序
 56 法律概論序
 57 撮影帖題辭
 58 雲煙図録題詞
 59 祝興農新誌開業文
 60 書畫面帖後
 61 書貝葉古経函
 62 開口新誌跋
 63 書樂翁白川侯行美後
 64 慶弘紀聞跋

- 65 書竹蔭詩稿後
 66 書鴨東名妓写真譜後
 67 文話五則
 68 ～ 78 澤上箚記一 ～ 十一
 79 海南義烈伝序
 80 清朝史略序
 81 政学概論序
 82 新刊咫聞録序
 83 野画新法序
 84 近世名家文抄二編序
 85 内国史略字引跋
 86 纂評文章軌範序
 87 国朝史略序
 88 精神病約説序 代真島氏
 89 統近世名家文抄序
 90 黃石齋詩集序
 91 黃石齋詩鈔序
 92 ～ 97 題藤本鉄石・松本奎堂墨跡（七絶六首）
 98 ～ 104 初冬近郊散步（七絶七首）
 105 食新茄（花頂喰社四月宿題）（七古）
 106 苟完居記
 107 統五雲樓記
 108 八阪神祠新築文庫記
 109 国史略第三輯序
 110 ～ 111 秋懷。次石子儉韻、却寄（七律二首）
 112 ～ 116 東山左樓喫洋饌五首（七絶）
 117 説大日本史（七古）
 118 説杜集（七律）
 119 過小山駅、有感慶元故事、書客舍壁（七古）
 120 鎔毀銅仏鑄造巨煩論
 121 論近世将府隆替
 122 論孟子制民產
 123 唐太宗論
 124 王安石論
 125 国朝史略序
 126 浄雲石川君墓碣銘
 127 夢鷗嘆語叙
 128 金蘭小詩序
 129 国史略二篇字引叙
 130 国史略三篇字引叙
 131 関西詩文叙
 132 標註国史略訳解序
 133 増評韓蘇詩抄序
 134 自寿六十一初度序

- 135 杉山千和六十寿序
 136 ～ 145 洪水書事十首〔有引〕（七絶）
 146 雲煙供養図録序
 147 栗齋小稿序
 148 統近事紀略跋
 149 ～ 150 四月二十五日、石子儉見訪。留而小酌。明日子儉有詩見贈。賦此答謝（七律二首）
 151 花頂吟社詩會、以春雨訪友命題。此日會者、船山、天江、双橋諸人、併予都六人也。詩限以七律。晡時穀雨如油、葉欄落花、將筵適甚矣。時丁丑四月念六日也（七律）
 152 食新茄〔花頂吟社四月課題〕（七古）
 153 駕汽車抵神戸。車中叙所見、作汽車行〔錄近作充宿題〕（七古）
 154 舍北揺落景殊佳〔印須社宿題〕（五律）
 155 国史楽府序
 156 先塋碑陰記
 157 屏風戦図 武蔵鑑
 158 木屐入浴 膝栗毛
 159 知命乘輿 武蔵鑑
 160 〔断片、廃仏毀釈についての文〕
 161 漢画捷徑叙
 162 美濃国羽根谷新道碑
 163 ～ 164 新緑二首（七律）
 165 ～ 166 画蟹（七絶二首）
 167 十七種素芳堂記
 168 四顧皆花楼記
 169 ～ 170 春雨鳴鳩（七絶二首）
 171 ～ 172 用広瀬青村留別詩韻却寄〔錄近作乞正〕（七律二首）
 173 織月亭記
 174 灯籠堂記
 175 晚翠堂詩文集序
 176 詠月琴〔有引〕（七古）
 177 菊章銀盃歌。寿家海莊丈人八十〔有引〕（七古）
 178 ～ 183 西大谷新□〔有引〕（七絶六首）
 184 ～ 185 秋夕書懷。示石子儉（七律二首）
 186 詠松寿某上人還曆（七古）
 187 詠風（七絶）
 188 送村上子寛還豊前序
 189 ～ 195 観都踊七首〔有引〕（七絶）
 196 例言六則
 197 消暑雜誌（名妓吉野伝第一～二号）
 198 円山子光六十一寿序

- 199 本朝形史序
 200 自問自答序
 201 夢鷗嚙語序
 202 晚翠堂詩文集序
 203 怨軒文稿跋
 204 前島村堤防再脩碑
 205 前嶋村堤防再修碑
 206 攻異端是害也已論
 207 義仲論
 208 「無題」(断片、開国前後の史実を記す)
 ・ 後醍醐帝木主記(上甲様、活版)
 ・ 「三浦漁詩稿」(以下五丁分。細日略。冒頭に「土佐三浦漁、字子漁、号竹荘、又号一竿漁者」とあり)

【十五】三溪文略(4・05/サ/3 貴)

- ①分量 二冊
 ②書型 第一冊縦二三・五cm×横一六・二cm、第二冊縦二二・九cm×横一五・五cm、第一冊縹色表紙、第二冊縹色布目表紙、四つ日綴じ
 ③丁数 第一冊二六丁、第二冊三三丁
 ④外題 第一冊「三溪文略 全」(表紙左肩、子持粹書き題簽)、第二冊「三溪文略二編 全」(表紙左肩、子持粹書き題簽)
 ⑤内題等 第一冊一丁表左端に「三溪先生文略仮輯第壹卷」、第一冊内題「三溪文略卷一」、第二冊内題「三溪文略二編卷一」
 ⑥序跋 なし
 ⑦備考 第一冊は明治十二、十三年頃、京都居住中の文を収める。第二冊は明治三、四年頃、常総居住中の文を収める。
 ⑧目次

第一冊

- 三溪文略卷一
 1 与市村春卿書
 2 与高瀬川子水書

3 代翹秀才答某生書

4 与家溪琴先輩報震災書

5 答山田子静書

6 市川白猿伝

7 宝生弥五郎伝

8 阿部豊後守忠秋逸事

第二冊

●三溪文略二編卷一

9 代翹秀才答某生書

10 与信夫文則書

11 福堂詩識序

12 母自欺齋詩抄序

13 贈秋葉生

14 送進士僊吉序

15 熟字類編叙

16 五一堂記

17 日蓮上人画像記

18 十七種素芳堂記

19 花月堂記

20 光霽軒記

21 磯浜觀潮記

22 貫山土屋公恩賜机記

23 記霞浦舟遊

24 紅於亭

【十六】三溪文稿（甲）（4・05／サ／4貴）

①分量 二冊

②書型 上冊縦二三・〇cm×横一五・三cm、下冊縦二三・

三cm×横一六・〇cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ

③丁数 上冊一八七丁、下冊二二一丁

④外題 「三溪文稿 上」「下」冊（表紙左肩、単梓書き題

簽、篆書）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 いったん薄紙表紙を付けてまとまれた詩文稿を

合綴したもの。構成は以下の通り。

○上冊

(1)薄紙表紙（見返しに貼り付け）に「文稿」とあり、安政四、五年の文稿。八丁（うち一丁は後表紙）。

(2)薄紙表紙に「丁巳文稿 菊池純未定稿」とあり、安政四年の文稿。二二丁（表紙、後表紙各一丁を含む。以下同）。

(3)薄紙表紙に「辛酉文稿」とあり、文久元年の詩文稿。一四丁。

(4)薄紙表紙に「文稿 菊池純草」とあり、嘉永三

（六年の文稿。二二丁）。

(5)薄紙表紙に「文稿（午稿）」とあり、(1)と同内容。九丁。

(6)薄紙表紙に「文藁」とあり、安政元、二年の文稿。三二丁。

(7)薄紙表紙に「壬子文稿」とあり、嘉永五年の文稿。二三丁。

(8)薄紙表紙に「草稿（丙辰）一」とあり、安政三年の文稿。二二丁。

(9)薄紙表紙に「文稿（丙辰）二」とあり、安政三年の文稿。二二丁。

(10)薄紙表紙に「旧稿 一」とあり、年次未詳、文稿。六丁。

(11)薄紙表紙に「文稿 五篇」とあり、年次未詳、文稿。一〇丁。

○下冊

(1)薄紙表紙なし、文稿。年次の分かる所収作品のうち最も早いものは慶応二年、後のものは明治十年。六〇丁。

(2)薄紙表紙に「三溪文稿」とあり、年次未詳、文稿。二二丁（表紙、後表紙各一丁を含む。以下同）。

(3)薄紙表紙に「三溪文稿（壬申） 完」とあり、

明治四、五年の文稿。二一丁。

(4) 薄紙表紙に「鄙文小稿」とあり、文稿。安政六年の神交機識語あり。二二丁。

(5) 薄紙表紙に「鄙文 菊池純藁」とあり、嘉永五年頃の文稿。二四丁。

(6) 薄紙表紙に「鄙文三篇」とあり、明治二、四年の文稿。七丁。

(7) 薄紙表紙に「小藁」とあり、詩稿。慶応二年の作を含む。九丁。

(8) 薄紙表紙に「小藁 菊池純拝草」とあり、年次未詳、文稿。九丁。

(9) 薄紙表紙に「雑文小藁（丙辰） 菊池純太郎稿」とあり、安政二、三年の文稿。一六丁。

(10) 薄紙表紙に「雑文小稿（壬申如月造）」とあり、明治二、五年の文稿。二一丁。

⑧ 目次

上冊
文稿

1 送宇佐美某序

2 送丸山竹所序

3 馬上雪行記

4 織田右府論 『

下冊
文稿

5 送白井秋水序

6 陵川楼記

7 医学館唱和詩巻跋

8 題司馬君実撃甕図

9 題桑嗣燦朱面竹図。贈小浦青厓

10 答石川艇齋書

11 祭南溟先生文

12 孟母三遷論

13 孔子与曾点問・孔子与曾点講義

14 贈白井秋水序

15 与松平魯峰書 『

辛酉
文稿

16 春声楼記

17 竹蔭書屋記

18 晃山祭会図巻跋

19 書六如・淇園和歌題詩巻後

20 松魯峰村莊図巻跋

21 題跋四条（辛酉）

22 春夕微雨（七絶）

23 文章星図（七絶）

24 謙齋河尻君、頃日購得林園月令一函、令予題其函蓋。

函大三四寸、卷秩亦稱之。清麗奇秀、無物之可狀。可謂才人必讀之奇篇、名士文房之珍翫也（七律）

25 存齋新見君、藏紫端硯一枚。秀潤滑沢、能發墨色。蓋今大君加冠盛典恩賜之余、所購得。繼有脩大業広記之命。乃用以拱其事、使純記其盛事、以書其蓋背（七律）

26 偶感（七律）

27 秋晚露坐（七絶）

〔文〕

28 塩賊伝

29 題妹尾兼康戦死図

30 阿部忠秋伝

31 天野広丸伝

32 帶香園詩稿序

33 平山行藏伝（癸丑晚秋稿成）

34 有高才、能文章、三不幸論

35 蒼髯叟伝

〔文〕

36 送宇佐美某序

37 送丸山竹所序

38 馬上雪行記

39 織田右府論

〔文〕

40 統館柳唱和集序

41 曹參論

42 童課百絶序

43 足柄山吹簫図

44 月喻

45 案山子説

46 論藤原園人・善岑安世

47 送本多生序（代人）

48 郭巨論

49 祭衡岳府君文

50 書好古談賢図卷

51 豊臣勲功記

52 好古談賢図卷跋

53 送本多生序（代人）

54 湊泊寓居図卷跋

55 ～ 57 關辺陞一 ～ 三

〔主〕

58 太子申生論

59 小金橋觀花記

60 清正公祠堂記

61 臨江亭記

62 長所記

- 63 霞峰山人墨竹記
 64 君真物記
 65 荻野鳩谷伝
 66 読川角太閣記
 67 愛鶴説。賀雪峰田中君加秩
 68 平安聚勝帖跋
 69 梅亭画博石図跋
 70 答塩谷實山
 71 雜記一則』
 〔草稿〕〔丙辰〕一
 72 翠黛伝
 73 仏手柑記
 74 季札論
 75 四皓論
 76 柴田勝家論
 77 平氏論
 78 郭巨論
 79 論頼朝・義経
 80 与榊原茜洲書
 81 与茜洲』
 〔草稿〕〔丙辰〕二
 82 風白月香楼記
- 83 水影月香楼記
 84 項羽論
 85 鷹巢山
 86 伽羅巖
 87 和歌浦
 88 読鴨長明方丈記
 89 観不知火記
 90 下求麻川記
 91 題那智瀑布
 92 鍾乳洞記
 93 書弓銃弁後
 94 題蚯蚓呻吟後』
 〔草稿〕二
 95 与溪琴翁書』
 〔草稿〕五篇
 96 王安石論
 97 斐行儉論
 98 〽 99 柳瀬・長久手一〽二
 100 福堂詩識叙
- 〔下冊〕
 101 与高瀬川子水書
 102 寿大谷大教正六秩序

- 103 送人登富岳序
 104 自問自答序
 105 嵐峽記
 106 市川白猿伝
 107 仏手柑記
 108 粒画記
 109 七福神図記
 110 花月社記
 111 十七種素芳堂記
 112 白滝山觀瀑記
 113 榭溪記
 114 内国史略字引跋
 115 題輕氣毬図
 116 跋小島高德・楠正行題歌詩図卷後
 117 袖雲石記
 118 小影自贊
 119 名妓但馬伝
 120 信夫寛一郎墓碑銘
 121 觀月詩卷跋
 122 〓 128 觀梅游記一〓七
 129 從能見堂眺金沢八勝記
 130 金沢四時繪宜亭記
 131 〓 134 登筑波山記一〓四
 135 井伊直政
 136 加藤清正
 137 木村重成
 138 大谷吉隆
 139 後藤基次
 140 真田昌幸
 141 郡良列
 142 書碁行二十字詩後
 143 草廬三顧図
 144 題草廬三顧図
 145 題草廬三顧図
 146 題断機図
 147 代翹秀才答某生書
 148 白滝山瀑布図
 149 柳北詩抄序
 150 明智光秀論
 151 器用
 152 身体
 153 鳥獸

〔命〕

154 仏手柑記

155 月喩

156 郭巨論

157 曹參論

158 翠黛論

159 四皓論

160 季札論

161 読川角太閣記

162 童課百絶序

163 豊臣勲功記序

164 案山子説

165 粒画記 』

〔鄙〕

166 芳草楼記

167 贈松平元資序

168 続館柳唱和集序

169 書平原草廬図後

170 跋済涉余興後

171 月喩

172 足柄山吹簫図（以下七篇壬子文稿）

173 ～ 174 細川頼之論 一 ～ 二

175 光武帝療衣図（明教館命題）

176 周選唐賢絶句補注後叙

177 得叁文鈔叙

178 書津山中将確堂公書幅匣背

179 明智左馬介騎渡湖水図（七古） 』

〔文〕

180 老谷書屋記

181 重新鐘楼記

182 水確説 』

〔不〕

183 ～ 184 百美人図（折二）（七絶二首）

185 ～ 186 江村秋事（七絶二首）

187 ～ 189 秋霖無聊、日賦詩排悶（七律三首）

190 橋場（七律）

191 今戸（七律）

192 松尾芭蕉（七律）

193 宝井其角（七律）

194 ～ 196 読鴨長明方丈記（有引）（五古二首）

197 題画（五絶）

198 東台觀花。斯花原係林道春先生手植。樹皆合抱、花時

遊賞之盛、都下弗觀其匹。吁嗟先生之惠厚矣。賦此書

感（七古）

- 199 月下老鶴図(七絶)
- 200 水窓(七律)
- 201 観挿秧(七律)
- 202 富岳図(五古)
- 203 美人読書図(七絶)
- 204 205 読貞観政要二首(七絶)
- 206 西瓜(七絶)
- 207 文覚(七絶)
- 208 日本橋(七律)
- 209 高輪(七律)
- 210 晚起湖亭観蓮花(七律)
- 211 偶言(五古)
- 212 旅夜聞人彈三絃(七古)
- 213 読山田長政伝(七絶)
- 214 読浜田弥兵伝(七絶)
- 215 読金忠輔伝(七絶) 』
- 不蒙
- 216 禁洋学議
- 217 続風白月香楼記
- 218 論平将門・藤原秀郷
- 219 書八幡太郎辺城観乱鴻図後
- 220 孟母断機図跋 』
- 221 南海外集序
- 222 送関根子業序
- 223 送季弟歳六序
- 224 送岩橋柳窓序
- 225 送川合梅所翁序
- 226 春月詩卷跋
- 227 港汭寓居図卷跋
- 228 漂民録話跋
- 229 与広瀬旭往 』
- 雜文小稿(壬申如月造)
- 230 長篠(七月十一日草)
- 231 大高・種石
- 232 大高・種石
- 233 穎考叔論
- 234 「無題」(七絶)
- 235 「無題」(七絶)
- 236 泛禹宿沼湖(七絶)
- 237 「無題」(七絶)
- 238 「無題」(七律)
- 239 「無題」(小勢も能く大軍を破る所以を論じた文。断片)

- 240 「無題」(同右)
 241 「一谷・栗鼓」
 242 一谷・栗鼓
 243 游白滝山觀瀑記
 244 ～ 245 相思艸記一 ～ 二(中絶)
 246 「宗珉」(断片)
 247 「佐々木文山」
 248 ～ 249 既涼(七律二首) 』

【十七】三溪文稿(乙)(4・05/サ/5貴)

①分量 二冊

②書型 縦二四・二cm×横一六・八cm、水色布日表紙、四

つ日綴じ

③丁数 上冊三九丁、下冊三四丁

④外題 「三溪文稿 上」「下」冊(表紙左肩、子持梓書き

題簽)

⑤内題等 上冊内題「三溪文稿」、下冊内題(一)「三溪

文稿」、内題(二)「遊勢奇賞」

⑥序跋 齋藤竹堂「三溪文稿序」(嘉永四年二月、「晴雪

樓存稿序」と同文)、塩谷誠「三溪文稿序」(嘉

永五年三月、関警郵書)

⑦備考 「三溪文稿」所収作品の上限は天保十四年(一八

四三)、下限は嘉永二年(一八四八)。

⑧目次

上冊

・三溪文稿序(齋藤竹堂)

・三溪文稿序(塩谷誠)

●三溪文稿

1 南溟文集序

2 海莊集序

- 3 霞湖漁唱序
- 4 送牧子徹序
- 5 送神原醒梁序
- 6 送古岳上人遊松島序
- 7 貝原君八十寿序
- 8 趙武靈王論
- 9 板垣信形論
- 10 細川頼之論
- 11 真間国府台記
- 12 咬菜堂記
- 13 粒画記
- 14 吞舟窟記
- 15 龍隱菴記
- 16 八鳥齋記
- 17 鉄屏風記
- 三溪文稿
- 18 答南陽仁井田翁書
- 19 上玉城大夫乞講洋炮書（代菊池士固）
- 20 賀海莊山人遇災書
- 21 異鳥說
- 22 豆腐說
- 23 御嶽新道碑銘
- 24 貞齋菊池君墓碑銘
- 25 伶官彦右衛門伝
- 26 義俠平五郎伝
- 27 恩田木工伝
- 28 読竹堂文鈔
- 29 書楠公碑陰搨本後
- 30 碁喩
- 遊勢奇賞
- 31 遊勢奇賞

【十八】三溪寸鉄（4・05／サ／6貴）

①分量 二卷二冊

②書型 縦二一・八cm×横一五・一cm、黄土色表紙、四つ

日綴じ

③丁数 上冊三五丁、下冊三九丁

④外題 「三溪寸鉄 上」「下」冊（表紙左肩、子持梓書き
題簽）

⑤内題等 内題「三溪寸鉄卷之一」「二」

⑥序跋 自序（明治二十一年十一月）、木崎孝跋（明治二十二年二月）

⑦備考 明治九く二十一年の小品を集めたもの。

⑧目次

上冊

※自序

●三溪寸鉄卷之一

1 撮影帳題詞

2 吳竹園題辭

3 開口新詞跋

4 題花街春曉図

5 駒形堂首夏図

6 待乳山遠眺図

7 灑上秋色図

8 書貝葉古経函（代真宗僧某）

9 新刻幼学詩韻・詩語碎金題詞

10 鉄馬遠響題詞

11 題蓮月尼肖像

12 真親会詩歌集引

13 国史略三篇字引題詞

14 雲煙図録題詞

15 書東京名勝詩後

16 書樂翁白川侯行実後

17 書沈石田画幅後

18 題楊舟画鷹図

19 一塵新誌引

20 詩作早学引

21 題風雨待渡図後

22 越柏新誌題詞

23 香草園小稿題詞

24 標註国史略訳解題詞

25 竹深留客処集跋

26 女学校課程略解題詞

27 囲棋錦囊題詞

28 国史略二篇字引題詞

- 29 書愛蓮說後
- 30 書尚友卷後
- 31 一夜百詠題詞
- 32 雞肋集引
- 33 書琴鶴帖後
- 34 書留春帖第十帙後
- 35 書月瀨觀梅画帖後
- 35 書留春帖第十二輯後
- 36 波越竹枝題詞

下冊

●三溪寸鉄卷之二

- 37 澤上筍記
- 38 ～ 47 記二 ～ 十一
- 48 興文新誌序
- 49 琵琶帖跋
- 50 千家絶句題詞
- 51 關西詩文題詞
- 52 国史論抄引
- 53 麗沢詩集引
- 54 扶桑書画帖跋
- 55 感恩帖題辭
- 56 花月草紙題詞

- 57 扶桑書画譜叙
- 58 是亦録跋
- 59 簿記字自修引
- 60 書鴨東名妓写真譜後
- 61 漢文独学引
- 62 懷旧詩三十首跋
- 63 書田野村小虎翁山水十二景図後
- 64 澡泉余録題詞
- 65 書莊周夢蝶図後
- 66 觀楓日記跋
- 67 滬吳日記跋
- 68 水餐煙語跋
- 69 書半日閑話後
- 70 月瀨記游一
- 71 ～ 75 記二 ～ 六
- 76 書旧文稿後
- 77 龍潤觀紅樹記
- 78 題案山子図
- 79 春日出村莊十勝記

・跋（木崎孝）

【十九】三溪雜稿（4・05／サ／7貴）

①分量 一冊

②書型 縦二二・七cm×横一四・二cm、ボール紙表紙、四つ日綴じ

③丁数 四六丁

④外題 「三溪雜稿 全」（表紙左肩、打付書、子持杵を書いた中に隸書で記す）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 種々の詩文稿を合綴したものの。元治元年、明治十年の作を収めると思しい。

⑧目次

1 訓蒙国史略字引序

2 花月社記

3 花月社後記

4 花月社記

5 京華新詠序

6 祥刑記

7 比翼塚（五古）

8 山吹里、想太田道灌氏故事（七古）

9 本所擒龍

10 天女使

11 節妓

12 若王寺後園記

13 狐廟華表

14 禁苑觀舞樂記

15 統兵要録序

16 蘆葉墨斗

17 答新見君

18 白銅文鎮』

*以下27まで、三丁分は、「京華集」稿本の一部。三丁

日裏末尾に「京華集甲篇〈終〉」とあり。

19 嵐山（七古）

20 ～ 21 小倉山二首（五絶）

22 盆栽小桜（七絶）

23 訪靄山山人溪山無尺椽、招竹外老人小酌。此日雪大起、

快甚也（七律）

24 知恩院（七絶）

25 回軌行（五古）

26 北山觀鹿園公茶寮。寮有南燭柱（五律）

27 春晚。次韻新見存齋』

・ 鞆間生伝（松平辻狂）

【二十】記佐賀県騷擾本末（4・05／サ／8貴）

①分量 一冊

②書型 縦二三・四cm×横一六・六cm、肌色表紙、四つ日綴じ、改装本（薄紙表紙一冊本に、厚紙表紙を付けて綴じ直している）

③丁数 八丁

④外題 「菊池純稿／記佐賀県騷擾本末 完」（表紙左肩、打付書）、「記佐賀県騷擾本末（二則）」（二丁目薄紙表紙左肩、打付書）

⑤内題等 なし

⑥序跋 なし

⑦備考 佐賀の乱に関する記事文二編。二編目の末尾に「土

⑧目次

屋（荘）拜稿」とあり、あるいは三溪作ではないか。五丁目と六丁目の間に三溪宛の紙片あり。

1-1-1 記佐賀県騷擾本末

〔付記〕なお、調査に当たっては、京都大学附属図書館特殊資料掛の方々に大変お世話になった。心より感謝申し上げる。また、本稿作成については、中村健史氏に多大のご助力をいただいた。記して謝意を表する。

（ふくい たつひこ・立命館大学文学部講師）